

# 2023 年報

*ANNUAL REPORT of SEIREI FUKUROI MUNICIPAL HOSPITAL*

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
袋井市立 聖隷袋井市民病院

[seirei.or.jp/fukuroi/index.html](http://seirei.or.jp/fukuroi/index.html)

## 病院理念

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、  
地域に信頼される病院を  
目指して歩み続けます』



聖隷袋井市民病院

### 経営方針

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

## 目次

■年報発刊にあたって.....	1
■沿革.....	2
■2023 年度事業計画	
・ 2023 年度事業計画.....	3
・ 2023 年度事業報告.....	5
■病院概要	
・ 病棟構成・職員状況.....	7
・ 組織図.....	9
・ 委員会会議名簿.....	10
・ 委員会活動報告.....	11
・ 多職種協働プロジェクト活動報告.....	16
・ NR 協働会議・委員会活動報告.....	18
■病院統計	
・ 各種統計（入院・外来・介護保険サービス等）.....	20
・ 財務統計.....	24
・ 患者満足度調査.....	25
・ 新型コロナウイルス感染症への対応記録.....	26
■業務実績	
・ センター部門（医療安全管理室・感染管理室・退院支援室・在宅支援室）.....	27
・ 診療部.....	29
・ 看護部.....	30
・ 3 階病棟.....	31
・ 4 階病棟.....	32
・ 5 階病棟.....	33
・ 外来.....	34
・ 事務・診療技術部門	
・ リハビリテーション室.....	35
・ 薬剤室.....	36
・ 臨床検査室	
・ 画像診断室.....	37
・ 栄養管理室	
・ 事務課.....	38
■学術実績（講演・学会発表、著書・論文）.....	39
■教育実績（階層別研修、NR 研修、委員会主催研修、実習生受け入れ）.....	42
■メディア掲載.....	46

おかげさまで 2023 年度も袋井市立聖隷袋井市民病院の年報をここにお届けすることができました。まずは当院を応援してくださる皆さまのご支援に深く感謝いたします。

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行し、社会は徐々に以前の通常な生活へと回帰していきましたが、一方で我が国の高齢化は確実に進行しています。2023 年 5 月に当院は開院 10 周年を迎えましたが、地域の医療機関としての私たちの役割が、ますます重要なものとなってきていることを改めて感じる機会となりました。そこで、地域の皆さまと共に歩む姿勢を忘れないよう、2023 年度も 2022 年度に引き続き「地域 No.1」の回復期・慢性期医療を提供することを年度の目標としました。

目標達成のためにとくに注力したのは、質の高い医療サービスを提供することです。院内の様々な職種が一体となって、認知症ケアや終末期医療、看取りケアなどについて質改善活動に積極的に取り組みました。その結果、利用される皆さま一人ひとりに、これまで以上に寄り添った姿勢で医療を提供できるようになったと感じています。

また先進的な医療機器を活用したりハビリテーションの充実は、回復期病棟の実績指数を大きく向上させました。これは地域の皆さまに質の高いリハビリ医療を提供できたひとつの証しだと捉えています。さらに在宅医療や訪問リハビリテーションの拡充でも大きな成果を上げることができました。訪問診療では前年を上回る方々へ支援を行い、訪問先でのボツリヌス療法の開始など新たな取り組みも展開しました。加えて、地域のケアマネジャーや多職種との連携を強化し、退院後の生活を見据えたサポート体制を充実させることで、皆さまが地域で安心して生活できるように支援を行いました。

このような取り組みを通じて、患者の皆さまに「この病院で診てもらいたい」と思っただけのような信頼関係が築かれていることを少しずつ実感しています。

病院内の医療安全管理や感染症対策においても、多職種による連携を強化し、仕組みを見直して事故予防や感染拡大防止に努めました。院内感染の発生もありましたが、迅速かつ適切な対応により短期間で収束することができ、職員一同の努力と連携の重要性を再確認する機会となりました。また、災害対策の強化として、発災後 72 時間以内に取りべき行動を具体的に訓練し、万一の事態に備えた体制を整えることができました。

以上おおまかに 2023 年度の当院の活動を振り返りましたが、これらの成果の中には、職員の自信に結びついたもの、地域医療に対する私たちの責任をより深く感じる契機となったものなどがあったように思います。年報の記事から活動の一端をご確認いただければ幸いです。



今後も聖隷袋井市民病院は、患者の権利を尊重した良質な医療の提供を最優先し、急性期医療機関、開業医、介護施設等との連携や在宅医療の発展を通じて、地域全体の健康と福祉に貢献してまいります。これからも皆様のご指導とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。2023 年 5 月 1 日の朝、袋井は前日までの雨も上がって晴れ上がり、透き通った青空には丸 3 年間の長いコロナ禍のトンネルをようやく抜け出せそうな明るい雰囲気を感じました。この日、聖隷袋井市民病院は設立からちょうど 10 年の節目、10 歳の誕生日を迎えました。宮本名誉院長をはじめ、これまで当院の運営に関わってこられた皆さんの感慨もひとしおだったものと思います。皆さんのこれまでのご苦勞、ご健闘、ご活躍に改めて深く敬意を表します。

病院長 林泰広

## 沿革

1945年	5月	日本医療団袋井健奨寮として産業労働省のため開設
1947年	11月	協立袋井病院開設（袋井市高尾）
1955年	8月	共立袋井病院開設（142床）（袋井市久能）
1971年	6月	袋井市が受け継ぎ袋井市立袋井市民病院と改称
1979年	12月	袋井市久能地内に移転新築オープン（305床）
1989年	10月	西病棟150床増設（許可病床455床、稼働病床400床）
2006年	11月	許可病床400床に変更
2013年	5月	袋井市立聖隷袋井市民病院開設（聖隷福祉事業団が指定管理者受託）、一般病棟50床,脳神経外科・内科標榜 宮本恒彦院長, 病院長就任 オーダーリングシステム (Mirai's) 導入
	6月	保険診療開始（7名の入院患者）
2014年	4月	整形外科標榜
	7月	CT更新
	8月	西棟増築工事完了,一般病棟50床移設
	9月	療養病棟50床許可,36床オープン
2015年	5月	袋井市総合健康センター（地域包括ケア推進係、保健、社会福祉協議会などの福祉機能）と同一建物内での運営
	8月	摂食機能療法算定開始
2016年	4月	3階回復期リハビリ病棟オープン（37床）,リハビリテーション科標榜 院内託児所「ふくろうのもり」開設
	5月	訪問歯科診療受入（袋井市内の歯科医院にて）
	6月	療養病棟50床オープン
	10月	売店（グッドライフ）オープン,喫茶スペース設置
2017年	1月	上部消化管内視鏡検査開始
	9月	休日リハビリテーション提供体制加算施設基準取得（リハビリ初期加算算定開始）
	11月	退院支援部門「退院支援室」設置（退院支援加算算定開始）
2018年	2月	開院5周年院内コンサート
	2月	3階回復期リハビリ病棟フルオープン（37→50床）
	3月	MRI1.5T 更新 退院前訪問指導料算定開始
	4月	第二期指定管理期間開始
	6月	電子カルテ導入検討プロジェクト開始
	6月	リハビリテーション外来開始
	11月	袋井商業高等学校による院内コンサート開催
2019年	2月	感染管理加算2、認知症ケア加算2算定開始
	4月	訪問リハビリテーション事業開始 「在宅支援室」設置 データ提出加算1算定開始
	9月	電子カルテ（MegaOakHR）稼働
	10月	第1回市民公開講座開催
2020年	2月	医療機能評価機構による病院機能評価受審 ～新型コロナウイルス感染症の流行開始～
	7月	「在宅支援室」活動開始 医療機能評価機構による病院機能評価の認定
	10月	発熱外来開始
2021年	4月	コロナワクチン接種開始 ボトックス療法開始
2022年	5月	リハビリテーション科訪問診療開始（13日）
	7月	静岡県訪問看護出向事業に参画
	10月	宮本恒彦院長, 名誉院長就任 林 泰広院長, 病院長就任 耳鼻咽喉科標榜
2023年	4月	第三期指定管理期間開始
	6月	特定行為研修 実習受け入れ開始（気管カニューレ交換）
	7月	「ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会」の発足
	11月	リハビリテーションマネジメント加算算定開始
2024年	2月	静岡県版看護業務効率化アワード2023最優秀賞受賞 ふくけん！健診に参画（MRI・CT撮影に協力）
	3月	コロナワクチン集団接種の終了 累計48,933回（290日） 市民公開講座開催（3病院合同開催）

## 聖隷袋井市民病院

2023年度は袋井市から指定管理を受託し第3期目に入り、5月には10周年を迎える。開設以来中東遠医療圏における後方支援病院としての役割を果たしつつ、“退院後の生活の支援”にも注力し、地域包括ケアシステムの一翼を担うため発展し続けている。

終息の見えない新型コロナウイルス感染症への対応など地域貢献を継続しながら、『地域 No.1』の回復期・慢性期医療を提供すべく引き続き進化を続ける。一般・回復期・療養病棟それぞれの特長を伸ばす、訪問診療等業務の拡大や先駆的なリハビリテーションに取り組む、それらが地域住民に認知されることで“この病院で診てもらいたい”というサイクルをまわしていきたい。

### 【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

### 【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

### 【事業・運営計画】 選ばれる病院『地域 No.1』を目指す episode2

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
  - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
    - ① 職場や委員会等の質改善指標の可視化
    - ② 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの質向上
    - ③ 終末期患者への緩和医療や看取りケアの質向上
    - ④ 利用者の利便性・満足度の向上
  - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
    - ① I/A レポート報告の推進と事故予防策の検討、実践
    - ② 院内感染管理体制の強化と実践
  - (ウ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実
    - ① ロボット等の先進機器の活用を含めた先駆的なリハビリテーションの提供
    - ② 摂食えんげ障害への支援の充実
    - ③ 高次脳機能障害への支援の充実
2. 地域共生社会への貢献
  - (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化
    - ① 退院支援機能の向上
    - ② 訪問診療の発展

③ 訪問リハビリテーションの拡充

(イ) 後方支援病院としての機能の強化

① 急性期病院との密な情報交換の実施

(ウ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援

① 職員と市民の認知度向上に向けた取り組みと ACP の実践

(エ) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案

① 地域における他事業所や多職種との連携強化

② 地域住民との協働による運動普及の推進

3. 人材の確保・育成の推進

(ア) 人材の確保と育成

① 採用困難職種（医師・看護補助者）の採用強化

② 看護補助者教育体制の充実

(イ) 専門性向上の支援

① 認定資格等の取得促進

② 資格取得後の活用体制の構築

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

(ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備

① 時間外労働の低減につながる業務改善

② 腰痛軽減策の実施

(イ) 両立支援制度（育児・介護・がん）の普及啓発、活用

5. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

① 入退院調整の強化

② 情報発信力の強化

(イ) 災害対策の強化

① 発災から 72 時間に取り組むべき行動の可視化

【地域における公益的な取り組み】

- ・ 認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動
- ・ 「こころのノート」普及啓発活動
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応

【数値指標】

サービス活動収益	1,679,780 千円	職員数	197 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	45 人／日	7,600 円	-
入院	131 人／日	28,700 円	87%
再掲（回復期）	43 人／日	36,850 円	86%
（一般）	42 人／日	27,400 円	84%
（療養）	46 人／日	22,260 円	92%

## 聖隷袋井市民病院

2023 年度、長く続いたコロナ禍は、感染症分類の変更に伴って日常生活の一部となり、人々の活動性も高まった。当院では『ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会』を立ち上げ、地域のケアマネジャーを招いて集合研修を実施したり、袋井市および掛川市の 3 病院合同市民公開講座を開催したりと、地域の方々と直接の関りを高めた。

5 月には開設 10 周年を迎えた。開院して以来、職員数を増やし、許可病床を段階的にフルオープンさせ、訪問リハビリテーションや訪問診療の提供を開始し継続できていることは、支えてくれている当院職員や袋井市職員、連携する事業所の方々、地域住民のおかげと感謝申し上げたい。

### 【事業・運営計画】 選ばれる病院『地域 No.1』を目指す episode2

#### 1. 安全で質の高い医療サービスの提供

(エ) 多職種で取り組む質改善活動の推進：「認知症ケアの向上」は、患者の生活情報収集方法を院内共通とし、院内デイケアも立ち上げた。「終末期患者への緩和医療や看取りケアの向上」は、『その人らしさを大切にしたケア』をあるべき姿とし、ホスピス見学や勉強会を実施した。「利用者の利便性向上」は、病棟トイレの環境を変更した。患者満足・職員やりがい度調査では、他施設とベンチマークが可能な医療機能評価機構の方法を採用した。

(オ) 多職種による安全な医療サービスの提供：「医療安全管理」では、安全文化醸成のため Team STEPPS や確認会話研修を実施、ヒヤリハット報告を推進した。「感染管理」では、新型コロナウイルス感染の院内発生があったものの、スタッフの感染対策の遵守により孤発にとどまり短期に収束できた。

(カ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実：「機器を活用したリハビリテーション」や提供単位数の増加により、回復期病棟のリハビリテーション実績指数は 42.5 (目標 40 以上) となった。「摂食えんげ障害」に対しては、嚥下レントゲン検査を本格運用し 88 件実施した。嚥下造影や内視鏡検査は 2024 年 6 月に 2 枠増枠する。“食べる”を支援するため、食事介助ができるスタッフの育成も行った。「高次脳機能障害」患者・家族への支援運用を確立し、自主作成したパンフレットを院内各所に設置した。自動車運転再開に関する自動車学校との連携は 2 年目となり 2022 年度比で 200% (4 名→11 名) となった。

#### 2. 地域共生社会への貢献

(ウ) 退院後生活を見据えた支援体制の強化：『ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会』では、地域のケアマネジャーとの合同研修を 2 回開催した。職種による思考プロセスの違いを共有でき、患者支援の向上に繋がる結果が得られた。訪問看護出向研修事業への参画も継続した (1 名)。2 年目となった訪問診療は延べ 45 名 (2022 年度 37 名)、訪問先でのボツリヌス療法も開始した。訪問リハビリテーションは延べ 878 回 (2022 年度 792 回)。

(エ) 後方支援病院としての機能の強化：医師や看護師が急性期病院を 7 回訪問。情報共有や当院からの要望等が伝えられる関係性を構築できた。

(オ) ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の概念を基にした意思決定の支援

「こころのノート」を院内 6 か所に設置し、手に取った市民の方が約 250 冊を持ち帰った。院

外の説明会・講演会にも医師や療法士が参画し普及啓発に努めた。

- (カ) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案：地域の他事業所の療法士とともに袋井市の総合事業の在り方を検討した。体操指導者として活動する市民に関わり、運動評価や二重課題の実施へと発展的に導くことができた。

### 3. 人材の確保・育成の推進

- (イ) 人材の確保と育成：事業団内連携により内科医 1 名、募集体制の強化により看護補助者 5 名の採用に繋がった。介護福祉士の役割の明文化、看護補助者教育の検討を開始した。

#### (ウ) 専門性向上の支援

職員に対し認定資格等の取得希望調査を行ったことで、積極的な情報提供が必要と分かった。

「特定看護師」は 6 月から活動を開始、手順書に基づき述べ 10 名の患者の治療に関わった。点滴に至らないための全身管理、看護師の教育が中心的活動であり役割であった。

### 4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

#### (ウ) 業務効率化の推進と労働環境の整備

情報収集に関する時間や方法の見直し、クラークの活用、記録の見直し等行い、各職場で取り組んだ。腰痛アンケートの結果による受診勧奨、腰痛予防体操の啓発等を行った。

- (エ) 両立支援制度（育児・介護・がん）の普及啓発、活用：男性職員への育休取得のための情報提供書を作成し運用を開始し、2 名の男性職員が育休を取得した。

### 5. 経営基盤の安定化

- (ウ) 病床稼働の安定化：退院患者の可視化、病棟間での患者調整、急性期病院からの紹介後速やかな入院判定等に取り組み、過去最高の稼働率 年 89.4%（最大月 94.6%）となった。

- (エ) 災害対策の強化：発災後 72 時間以内に必要となる事柄を具体的に訓練した。炊き出し・食事搬送、防火水槽からのくみ上げ、災害対策本部の情報分析訓練など行った。

#### 【地域における公益的な取り組み】

・認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動、「こころのノート」普及啓発活動、新型コロナウイルス感染症への対応（ワクチン接種、発熱外来）等、継続した。

#### 【数値実績】

項目	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	45 名	46 名	102.2%	106.9%
外来単価	7,559 円	8,351 円	110.4%	93.6%
入院患者数	131 名	134 名	102.2%	107.2%
入院単価	28,706 円	27,698 円	96.4%	99.1%
病床稼働率	87.3%	89.3%	102.2%	107.2%
職員数	197 名	191 名	96.9%	101.5%

#### 〈訪問リハビリテーション〉

項目	予算	実績	対予算	対前年
利用回数（月平均）	932 件	878 件	94.2%	110.8%
単価	3,377 円	3,318 円	98.2%	99.4%

## 病院概要（2024年4月1日現在）

- 開設者 袋井市長
- 病院名 袋井市立聖隷袋井市民病院
- 指定管理者 社会福祉法人聖隷福祉事業団
- 所在地 〒437-0061  
静岡県袋井市久能 2515 番地の 1  
TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813
- 開院日 2013 年 5 月 1 日
- 理事長 青木善治
- 病院長 林泰広
- 看護部長 春日三千代
- 事務長 梶間弘美
- 病床数 150 床
- 常勤職員 208.2 名
- 認定施設 保険医療機関  
生活保護法指定医療機関  
労災保険指定医療機関  
結核予防法指定医療機関  
被爆者一般疾病医療機関  
指定自立支援医療機関（精神通院医療）  
難病法に基づく指定医療機関  
特定疾患治療研究事業  
指定小児慢性特定疾病指定医療機関
- 標榜科目 耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科、内科、リハビリテーション科
- 病棟構成

名称	病床数	入院料
3 階病棟	50	回復期リハビリテーション病棟入院料 3
4 階病棟	50	地域一般入院料 3
5 階病棟	50	療養病棟入院料 1
合計	150	

- 施設基準
  - －基本診療料 看護補助加算 1、看護配置加算、療養環境加算、療養病棟療養環境加算 1、夜間看護加算（療養病棟入院基本料の注 12）、入退院支援加算 2、データ提出加算 1・3、診療記録管理体制加算 2、感染対策向上加算 3、連携強化加算、認知症ケア加算 3、
  - －特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）、薬剤管理指導料、検体検査管理加算（Ⅱ）、CT 撮影（16 列以上、64 列未満マルチスライス CT）、MRI 撮影（1.5 テスラ以上 3 テスラ未満）
  - －その他 選定療養、入院時食事療養（Ⅰ）

■ 職員状況

※休職者含む

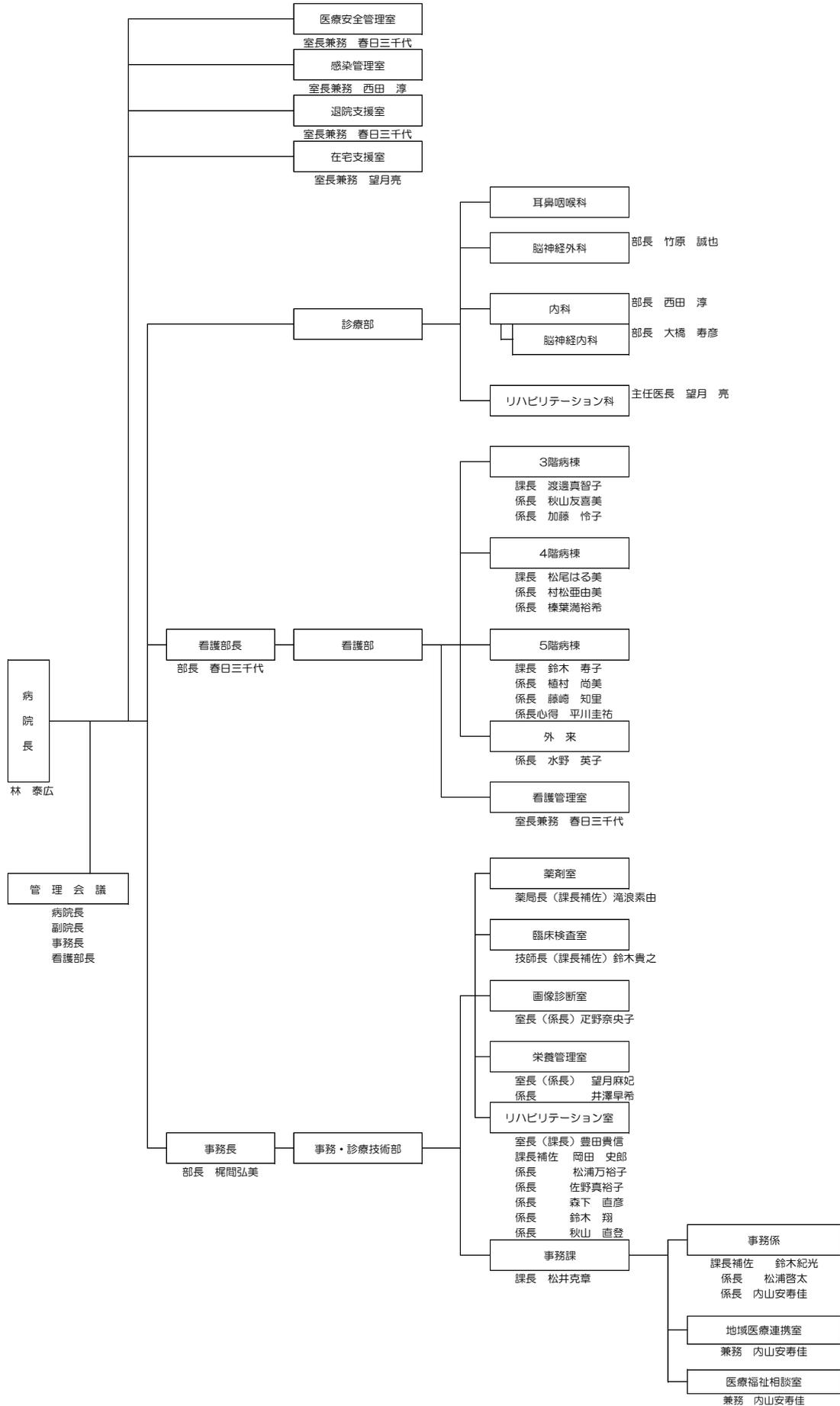
部門名	職能別内訳	区分		合計
		常勤	非常勤	
医 局	医 師	4	3	7
看 護 部	看 護 師	74	5.9	79.9
	准 看 護 師	4		4
	助 産 師	1		1
	介 護 福 祉 士	10	1.3	11.3
	看 護 助 手	11	3.8	14.8
	事 務 職	3	0.6	3.6
臨 床 検 査 室	臨 床 検 査 技 師	2		2
画 像 診 断 室	放 射 線 技 師	3		3
薬 剤 室	薬 剤 師	4		4
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 室	理 学 療 法 士	27		27
	作 業 療 法 士	22		22
	言 語 聴 覚 士	4		4
	歯 科 衛 生 士	1		1
	事 務 職		0.9	0.9
栄 養 管 理 室	管 理 栄 養 士	4		4
事 務 課	事 務 員	17	1.7	18.7
合 計		191	17.2	208.2

■ 主な器械備品

(太文字：新規購入 or 更新)

機器名	数	メーカー名	機種名
1.5 テスラ MRI	1	フィリップス	Prodiva CX 1.5T
64 列マルチスライス CT	1	GE	Optima CT 660Pro Advance
FPD システム	3	コニカミノルタ	CS-7・FPD
X線 TV システム	1	キヤノン	ZEXIRA
C-アーム	1	フィリップス	BV Pulsera
骨密度測定装置	1	GE	PRODIGY
移動式 X 線撮影装置	1	島津製作所	MobileArt Evolution
超音波診断装置	3	GE ヘルスケアアジア	LOGIQ S7、LOGIQ P6、LOGIQ P10
心電計	3	日本光電	ECG-1550×2、ECG-1450
脳波計	1	フクダ電子	COMET CM-E
生化学分析装置	1	キャノンメディカル	TBA c-8000
多項目自動血球分析装置	1	アボット	CELL-DYN Ruby
血液ガス分析装置	1	シスメックス	OPTI CCA-TS
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CA-650
全自動尿分析装置	1	アークレイ	AX-4061
自動グリコヘモグロビン分析計	1	TOSHO	G11 HLC-723
肺機能検査装置	1	チェスト	チェストグラフ HI-105
聴力計	2	RION	AA-57、AA-M1B
視力計	1	TOPCON	TOPCON SS-3
アンモニア測定装置	1	富士フィルム	NX10N
自動赤血球沈降速度測定機	1	テクノメディカ	ESR-6000
免疫分析装置	1	TOSHO	AIA-360

### 聖隷袋井市民病院 組織図



2023年度下期 聖隷袋井市民病院 会議・各種委員会名簿

管理会議 職場委員会等 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

区分	会議名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
	管理会議	第3木曜日 15:00~ 第2木曜日(予備)	毎月	◎林泰広 ■竹原誠也 ■西田洋 ■望月亮 ■宮本恒彦	春日三千代 ●渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	■豊田貴信 ▲鳴川貴司 ■鈴木貴之 ■疋野奈央子 ■望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章 ■鈴木紀光 ■松浦啓太
	職場 代表者会議	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田洋 望月亮 宮本恒彦	春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章
	診療部会議	第3木曜日 15:00~	必要時	◎林泰広 竹原誠也 西田洋 望月亮 宮本恒彦			梶間弘美 ▲松井 克章

委員会・会議

I 安全 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
○ 医療安全管理委員会 (輸血療法委員会)	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広	●春日三千代(医療安全管理者) ●渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美 水野英子	豊田貴信 滝浪素由 鈴木貴之 望月麻紀 ▲疋野奈央子(医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者)	梶間弘美 内山安寿佳
◎ 医療事故調査委員会		医療安全管理者の招集時	◎林泰広	●春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	▲疋野奈央子	●梶間弘美 松井克章
◎ 医療ガス安全管理委員会	第3木曜日 15:00~	年1~2回	◎林泰広	春日三千代	▲疋野奈央子 滝浪素由	●梶間弘美 松浦啓太
◎ 防災委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広(管理権限者)	渡邊真智子	▲豊田貴信 藤田 智大 滝浪素由 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	●梶間弘美(防火管理者) 松浦啓太 花嶋瑛里
安全運転委員会		年1~2回		松尾はる美	●疋野奈央子	梶間弘美 ◎松井 克章(安全運転管理者) ▲金原真有美

II 質の保障 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
○ 診療記録管理委員会 (情報システム委員会)	第3木曜日 15:00~	年3回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲増澤友紀 鈴木紀光
○ コーディング委員会		年2回	◎林泰広	春日三千代	滝浪素由	▲増澤友紀
個人情報保護委員会	第3木曜日 15:00~	年1~2回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 福島順子 ▲松浦啓太
○ 役割分担推進委員会	第3木曜日 16:00~	年3回	◎林泰広	●春日三千代 渡邊真智子	豊田貴信 滝浪素由 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲鈴木紀光
クニカルバス委員会		特数月	◎望月亮	●松尾はる美	松浦万裕子 滝浪素由 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	増澤友紀 ▲福島順子
倫理委員会	第3月曜日 16:00~	年4回	◎西田洋 宮本恒彦	春日三千代 松尾はる美	豊田貴信	梶間弘美 ▲鈴木紀光

III 健康 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
○ 院内感染対策委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	林泰広 竹原誠也 ◎西田洋 望月亮	春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美 植村尚美	豊田貴信 滝浪素由 ▲鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 松井 克章
◎ 衛生委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広 西尾信一郎(産薬医)	●春日三千代	豊田貴信 滝浪素由(衛生管理者)	梶間弘美 ▲松井 克章 金原真有美

IV 治療等 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
◎ 薬事委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田洋 望月亮	●渡邊真智子	▲滝浪素由(医薬品安全管理責任者)	増澤友紀
○ 臨床検査適正委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広 西田洋	●松尾はる美	▲鈴木貴之	松井克章
栄養委員会	第3木曜日 14:45~	毎月	◎竹原 誠也	●渡邊真智子 鈴木寿子 ●松尾はる美	▲望月麻紀 浅野全子 ■委託責任者(栄養士)	青島悠里
○ 褥瘡対策委員会	第3木曜日 15:00~	毎月	◎林泰広	●渡邊真智子 ▲鈴木寿子 松尾はる美	滝浪素由 鈴木翔 望月麻紀 鈴木貴之	
特定行為管理委員会	第3木曜日 15:00~	特数月	◎林泰広 宮本恒彦	春日三千代 ▲渡邊真智子 鈴木寿子	滝浪素由	

V 広報、その他 ◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
広報委員会		年4回		鈴木寿子	◎鈴木貴之 ▲岡田史郎 ○江塚和可子 夏目陽香 ○鈴木 健人	梶間弘美 吉澤文美 ●竹内沙弥果
利用者満足度向上委員会	第2木曜日 16:30~	年4回		植村尚美 水野英子 岡本かお里 角替多加恵 油井ともしみ	長田圭太郎 疋野奈央子	◎松井克章 ▲黒崎步実果
研修運営委員会		年1~2回	西田洋	◎春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美	岡田史郎 滝浪素由 ●鈴木貴之	▲松井 克章

VI 運営会議

◎委員長、●副委員長、▲事務局、■陪席

会議名等	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務
リハビリ運営会議	第3木曜日委員会終了後 (4月、7月、10月、1月)	年4回	◎望月亮、竹原誠也	渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美	●豊田貴信 岡田史郎 病下直彦 佐野真裕子 ▲ 鈴木翔	村井里美
外来運営会議	第3木曜日委員会終了後	年3回	林泰広 西田洋	◎水野英子 植村尚美 徳増文佳 春日三千代	後藤洋貴 ▲阿部篤子 江塚和可子 ●滝浪素由	増田俊介、花嶋瑛里
在宅支援室会議	第3木曜日 16:00~	年4回	◎望月亮	春日三千代、松尾はる美	豊田貴信 佐野真裕子	梶間弘美 ▲平岩佳奈美 内山安寿佳 増澤友紀 溝口真琴 松井克章

◎法的必置 ○施設基準(診療報酬ほか)

2024年2月1日付で上記の通り委嘱します。病院長

【医療安全管理委員会（輸血療法含む）】

開催実績 12回

審議・検討内容

- ・IA 集計と事例報告
- ・ハイリスク事例検討と対策立案
- ・MRM の内容確認、改訂
- ・輸血療法の実績報告

目標

- ・IA レポート報告の推進と、事故予防策の検討、実施
- ・患者誤認（Lv.0 以上）0 件
- ・IA レポート提出数 778 件以上
- ・ヒヤリハット率 6%
- ・取り組む環境整備
- IA レポートシステム改修

活動報告

- ・医療安全ニュース 月 1 回配信
- ・第 1 回 医療安全講習会 8 月 21 日～  
「TEAM STEPPS を始めよう」  
講師：聖隷横浜病院医療の質管理室 清水宏恵次長  
全 7 回 参加者 191 名
- ・第 2 回 医療安全講習会 2024 年 2 月 1 日～29 日  
「確認会話」 動画閲覧+確認テスト  
参加者 187 名
- ・MRM 改訂（委員会規約見直し・身体拘束について・  
新型コロナワクチン接種の運用・与薬・アナフィラ  
キシー発生時の対応・患者の離院離棟予防策と発生  
時の対応）
- ・BLS 講習会 職場毎実施
- ・リスクマネージャー講習会 2024 年 3 月 14 日  
講師： 林泰広病院長

【医療ガス安全管理委員会】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・医療ガス設備、点検の状況確認
- ・医療ガス 安全使用のための職員教育

目標

- ・医療ガスの安定供給と職員が安全に使用できる環境  
整備を行う

活動報告

- ・ガス供給設備巡視
- ・医療ガス使用時の注意点配信
- ・携帯用酸素ボンベ オキシライトの運用制定

【防災委員会】

開催実績 9回

審議・検討内容

- ・袋井市との協働による消防計画に関する事項
- ・袋井市が実施する消防・避難設備点検結果および維持管理に係る事項
- ・消防計画に基づく訓練の実施
- ・防災マニュアルおよび BCP（事業継続計画）に関する事項
- ・安否確認システムに関する事項
- ・その他防災・減災に関する事項

方針

訓練や職場防災活動を通して、職員自らが考えて行動できる防災体制を構築する

目標

- ①CSCATTT の概念を基盤とした防災訓練を通して、発災後 72 時間以内の行動計画を具体化する

活動報告

- ・防火水槽汲出し訓練 2023.4.18
- ・炊出し、食事運搬訓練 2023.5.9
- ・非常連絡網訓練（ANPIC：返信率 97.1%）2023.6.16
- ・職場防災ラウンド（委員 5 名） 2023.6.20
- ・全職員対象 消火器、消火栓、搬送訓練  
第 1 回 2023.7.21（33 名）第 2 回 2023.8.25（34 名）
- ・火災訓練 2023.10.5
- ・地震防災訓練 2024.2.1
- ・管理者用 非常連絡網更新
- ・BCP 改定、マニュアル整備と差し替え（目次、防災  
規約、防火対象物自衛消防隊編成表）
- ・アクションカード修正（災害対策本部）
- ・災害時を想定した広域災害救急医療情報システムの  
入力訓練参加 2023.7.5
- ・令和 5 年度静岡県災害医療従事者研修会 2 名参加  
2023.12.09

【安全運転委員会】

開催実績 2回（デスクネット開催）

審議・検討内容

- ・車両届の年度更新に関する報告
- ・危険予知トレーニングの実施

目標

- ・車両の管理及び安全運転の振返り、交通事故の防止
- ・新入職員導入研修での安全運転講習

活動報告

- ・車両届の年度更新、業務用車両私用者申請の更新

- ・業務用車両運転時のアルコールチェックの徹底
- ・動画を使用した危険予知トレーニングの実施

### 【診療記録管理委員会（情報システム含む）】

開催実績 5回

#### 審議・検討内容

- ・診療録管理上および診療録に関する事項の検討及び、情報セキュリティ向上への取り組みや、電子カルテ運用の検討を目的とする

#### 目標

- ・診療録の管理運営に関する課題の検討
- ・電子カルテ運用に関する課題の検討
- ・情報セキュリティ等の職員教育、啓蒙活動
- ・年3回以上の委員会開催

#### 活動報告

- ・記事入力「タイトル/プログラム」の追加
- ・退院サマリの書式改訂について
- ・生理検査結果の保管方法の変更の提案について
- ・外部記憶媒体管理規約の新規作成
- ・電子カルテ運用管理規約の改訂
- ・電子カルテ記録のリハビリ記録のタイトル変更・部署登録の変更について

### 【コーディング委員会】

開催実績 2回（うち デスクネット開催 2回）

#### 審議・検討内容

- ・適切なコーディングを行う体制を確保する

#### 目標

- ・委員会開催年2回以上

#### 活動報告

- ・入院病名 ICD-10 の報告
- ・ICD-10 表記されたドット9を適切な病名へのコーディングへの実施の報告

### 【個人情報保護委員会】

開催実績 1回（うち、デスクネット開催 1回）

#### 審議・検討内容

- ・「聖隷袋井市民病院 個人情報保護基本規程」に基づき実際の運用と手順の検討・審議をする

#### 目標

- ・個人情報保護に関する病院の方針決定
- ・個人情報保護に関する定期的な勉強会の実施

#### 活動報告

- ・個人情報を含む書類等の誤発送発生時の対応を検討

### 【役割分担推進委員会】

開催実績 2回

#### 審議・検討内容

- ・医師、看護師等の専門職種が専門性を必要とする業務に専念することにより、効率的な業務運営がなされるよう、適切な人員配置の在り方や、適切な役割分担をすることを目的とする。

#### 目標

- ・看護職員の煩雑な業務を再考し負担軽減を推進する
- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価

#### 活動報告

- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価
- ・看護職員が行っている事務的な業務を他職種が担う体制（タスク・シフト）を検討
- ・介護中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・院内保育所の継続及び新たな流行性感染症が発生した場合の院内学童の体制の整備

### 【クリニカルパス委員会】

開催実績 6回（+小部会6回）

#### 審議・検討内容

- ・クリニカルパス導入の推進
- ・クリニカルパスの評価と管理（バリエーション集計及びデータクリーニング）
- ・クリニカルパスの周知及び指導

#### 目標

- ・大腿骨骨折院内パス Ver3の集計・分析をふまえ、業務の簡素化や二次性骨折予防継続管理料Ⅱ算定を見据えた大腿骨骨折院内パス Ver4の作成

#### 活動報告

- ・大腿骨骨折院内パス退院者のバリエーション集計及びデータクリーニング
- ・大腿骨骨折院内パス Ver3の100事例での中間データ集計及び分析
- ・大腿骨骨折院内パス Ver4として「パス用の入院治療企画書」「パス用の医師指示コメント」「パス用サマリーシート」「パス用の中間カンファレンスシート」を作成し、令和6年3月から運用開始となった。
- ・地域連携パス及び院内パスの利用率集計

## 【倫理委員会】

開催実績 5回

### 審議・検討内容

- ・聖隷袋井市民病院の様々な活動における倫理的な課題及び諸問題等に対して、その倫理性を審議することを目的とする

### 目標

- ・倫理的課題に関する病院方針の決定
- ・臨床の場面で生じる個別具体的な倫理的課題の検討
- ・臨床研究における倫理的配慮の審議
- ・倫理コンサルテーションの実施

### 活動報告

- ・臨床研究審査の実施（8件）
- ・倫理コンサルテーションの開催

## 【院内感染対策委員会】

開催実績 16回（うち、臨時4回）

### 審議・検討内容

- ・院内における微生物の感染を積極的に防止
- ・院内各部署と連携し院内感染予防に取り組む

### 目標

- ・細菌検査状況報告
- ・感染対策ラウンド報告
- ・カテーテル使用者情報報告
- ・特定抗菌薬使用状況報告、不適切な使用ゼロ
- ・研修会開催
- ・手洗いチェック実施
- ・マニュアル改訂

### 活動報告

- ・毎月実施：細菌検査状況報告、感染対策ラウンド報告、カテーテル使用者情報報告、特定抗菌薬使用状況報告（不適切使用ゼロ）
- ・アンチバイオグラムの作成、共有
- ・研修会開催（職員参加必須研修2回）
- ・新型コロナウイルス感染症5類移行後の対応文書発行
- ・マニュアル改訂
  - 指針内、ICT業務に関する記載の変更
  - 偽膜性腸炎診断ガイドラインを追加
- ・インフルエンザワクチン接種の運用検討
- ・流行性感染症ワクチン接種計画、実施
- ・抗HIV薬の常備について検討、実施
- ・面会制限の検討
- ・環境清拭クロスの変更
- ・中東遠総合医療センターICD・ICNによる巡視

## 【衛生委員会】

開催実績 12回

### 審議・検討内容

- ・職員の健康障害の防止に関すること
- ・職員の健康の保持増進に関すること
- ・長時間にわたる労働による職員の健康障害の防止に関すること
- ・精神的健康の保持増進に関すること

### 目標

- ・定期健診の受診率 100%
- ・ストレスチェックの受検率 100%
- ・腰痛検診の実施

### 活動報告

- ・長時間勤務者の委員会報告
- ・産業医の院内巡視活動
- ・衛生管理者の職場巡視活動
- ・定期健康診断の実施、労働基準監督署への届出
- ・腰痛検診の実施、労働基準監督署への届出
- ・ストレスチェックの実施、労働基準監督署への届出
- ・放射線業務従事者被曝線量のチェック
- ・予防接種（麻しん、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）の接種歴管理と接種の推進

## 【薬事委員会】

開催実績 12回

### 審議・検討内容

- ・新規採用薬の検討：正式採用 18 剤の承認
- ・中止薬剤の検討：13 剤の削除
- ・副作用報告書の内容よりオーダー規制の報告、検討

### 目標

- ・採用医薬品の管理を徹底
- ・DI ニュースを毎月1回発行し、医薬品・医療機器の最新情報を収集、提供を行う
- ・副作用報告内容から、被疑薬の再投与防止に努める

### 活動報告

- ・3 薬剤を後発品へ切り替え
- ・副作用症例の検討、オーダー規制や副作用カードの発行
- ・供給不安定薬について薬剤の切り替え等検討

## 【臨床検査適正委員会】

開催実績 7回（うち デスクネット開催6回）

### 審議・検討内容

- ・臨床検査室の適正、円滑な運営に関する審議、検討

- ・臨床検査の質の向上に関する審議、検討

#### 目標

- ・精度保証の向上
- ・診療支援の向上

#### 活動報告

- ・電子カルテ検査依頼画面の改善
  - 検査依頼ウインドの名称簡略化
  - 検査依頼ウインドに新規検査項目追加
  - 委託検査のうち中止項目を削除
- ・精度管理調査の報告
  - 静岡県臨床検査精度管理調査 5月受審
  - 日臨技臨床検査精度管理調査 6月受審
  - 医師会臨床検査精度管理調査 9月受審
- ・検査装置保守状況の報告
  - 生化学分析装置・血液分析装置保守報告
- ・生理検査結果の報告、後日閲覧方法の変更
- ・超音波検査装置更新の案内

### 【栄養委員会】

開催実績 6回

#### 審議・検討内容

- ・入院時食事療養の改善・向上を図る
- ・濃厚流動食・検査食・栄養補助食品導入と削除検討
- ・各部署の要望事項のとりまとめ、検討

#### 目標

- ・地産地消献立：2回実施、郷土料理：2回実施含め、毎月1回行事食/企画の実施
- ・職員食アンケート/患者嗜好調査を実施し、食事満足度の向上に繋げる
- ・施設対抗料理対決：入賞
- ・栄養部門衛生監視により、衛生管理の向上に繋げる
- ・日本食品成分表2020年版(8訂)に合わせ献立変更
- ・炊き出し訓練実施、エレベーター故障時の配膳訓練
- ・栄養管理室BCP作成
- ・NST回診の再開検討

#### 活動報告

- ・毎月1回行事食/企画の実施(地産地消献立：春・秋の2回、郷土料理：長野県・鳥取県の：2回)
- ・卵の入荷制限に伴う献立変更
- ・栄養補助食品の変更、追加(エブリッチゼリー、ヴィタッチゼリー、乳Ca酵素、ファインファイバー採用)
- ・職員食アンケート：味付け丁度良い88.8%、患者嗜好調査：タンドリーチキン8.5点/10点満点、油淋鶏8.7点/10点満点、チキン南蛮8.7点/10点満点
- ・施設対抗料理対決 10月 4位入賞/16施設
- ・栄養部門衛生監視：○が93.6%
- ・日本食品成分表2020年版(8訂)へ移行 7月実施

- ・炊き出し・食事配送訓練 5月実施
- ・NST回診試験運用実施 9~2月(2回/月)
- ・身体測定マニュアル作成
- ・栄養委員会 規約改訂

### 【褥瘡対策委員会】

開催実績 12回(うちデスクネッツ開催4回)

#### 審議・検討内容

- ・院内の褥瘡件数の把握
- ・院内のスキンテア発生状況の分析
- ・院内に向けて褥瘡対策の啓発の実施

#### 目標

- ・院内発生の褥瘡件数とスキンテアが昨年度より減少する

#### 活動報告

- ・院内褥瘡発生36件/年(前年17件)、持ち込み褥瘡74件(前年109件)
- ・褥瘡発生率2.4%(前年2.8件)
- ・褥瘡回診50回/年 延べ患者数536名
- ・スキンテア件数183件(前年136件)
- ・新人職員対象勉強会開催
- ・褥瘡ケア推進ナースの設置
- ・VAC療法導入、勉強会開催

### 【特定行為管理委員会】

開催実績 2回

#### 審議・検討内容

- ・特定行為業務基準の作成と改訂
- ・特定看護師が介入した症例の報告
- ・手順書の発行の方法や特定看護師の実践内容の説明

#### 目標

- ・特定看護師が安全かつ円滑に実践できるよう運用を検討し、情報を共有する

#### 活動報告

- ・2023年3月、特定行為研修を修了した看護師(1名)
- ・院内での呼称「特定看護師」と決定
- ・業務基準を作成、6月から特定看護師が医師の手順書に基づき一部の医行為を実施できるよう体制整備
- ・区分“栄養および水分管理に係る薬剤投与関連”に対し、手順書が患者10名分発行され、2事例に実施

### 【広報委員会】

開催実績 6回(臨時開催2回)

#### 審議・検討内容

- ・院外広報誌『コスモスだより』作成発行管理

- ・HP『コスモス日記』更新管理
- ・機関紙 seirei7月号『事業部最前線』記事作成
- ・広報委員会規約の更新

#### 目標

- ・『コスモスだより』年4回(4,7,10,1月)発行
- ・HP閲覧数前年度比120%、月1回以上更新

#### 活動報告

- ・『コスモスだより』の作成、7000枚印刷、約180施設への発送、袋井市内回覧板にて配布
- ・バックナンバー管理方法の策定(PDFをHPへアップロード、棚の整理、過剰分の廃棄)
- ・HP『コスモス日記』定期更新と役割分担の明確化
- ・機関誌 seirei 2024年7月号『事業部最前線』の作成

### 【利用者満足度向上委員会】

開催実績 4回

#### 審議・検討内容

- ・接遇に関する事項の審議
- ・利用者満足度調査に関する事項の審議

#### 目標

- ・接遇研修 1回以上の開催
- ・患者満足度調査の実施

#### 活動報告

- ・接遇研修開催：43%
- ・患者満足度調査の実施：外来：147枚(回収率100%)
- 入院：44枚(回収率37%)
- ・クリスマスツリー飾りつけ
- ・院内クリスマスコンサートの開催

### 【研修運営委員会】

開催実績 4回(うち デスクネット開催4回)

#### 審議・検討内容

- ・新入職員導入研修プログラム(案)について
- ・新入職員導入研修の準備について

#### 目標

- ・新入職員導入研修の準備・開催
- ・聖隷福祉事業団階層別研修の開催(取り纏め)

#### 活動報告

- ・研修プログラムの立案
- ・資料の準備、会場設営、研修の司会・進行
- ・研修運営会議を研修運営委員会へ変更
- ・接遇のしおりの改訂

### 【リハビリ運営会議】

開催実績 1回

#### 審議・検討内容

- ・リハビリ運営会議の今後の方向性と規約について

#### 目標

- ・リハビリ運営会議の方向性の検討ができる

#### 活動報告

- ・検討事項についてはNR管理者会や回復期運営会議、各病棟の課長、係長会の会議内容と重複するためリハビリ運営会議は今年度で終了。

### 【外来運営会議】

開催実績 4回

#### 審議・検討内容

- ・外来運営に関する検討

#### 目標

- ・外来運営に対する運用の効率化・コメディカル間の情報共有

#### 活動報告

- ・リハビリテーション科外来診療枠増加に関する検討
- ・リハビリテーション科外来診療枠増加後の予約枠の検討
- ・資料袋運用変更についての検討
- ・外来での注射オーダー中止処理の見直し・改訂
- ・訪問診療のボツリヌス療法についての確認、共有

### 【在宅支援室会議】

開催実績 6回

#### 審議・検討内容

- 『地域住民が、自宅で最期まで(看取りまで)自分らしく生活し続けるための(QOL向上、健康寿命延長)支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』を目的に掲げ、そのために必要なことを検討する。

#### 目標

- ・要介護認定者に過不足なく適切な介護サービスを提供する。

#### 活動報告

- ・在宅支援室の目的を『地域住民が、自宅で最期まで(看取りまで)自分らしく生活し続けるための(QOL向上、健康寿命延長)支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』と掲げ、2023年度は上記目標を目指し、訪問診療・退院支援・訪問リハの3グループで活動した。※詳細は、センター機能の項に記載。

## 多職種協働プロジェクト（PJ）活動報告

PJ名	リーダー	メンバー	備考
認知症ケアPJ	秋山友喜美 (看護師)	・看護師：鈴木寛子、藤崎知里、松尾遼太 ・介護福祉士：平川圭祐 ・療法士：鈴木明日香 ・社会福祉士：吉澤文美 ・薬剤師：犬飼康子 ・袋井市保健師：香川紋己、内山ルデヤ	1時間 /回/月
緩和・看取りPJ	村松亜由美 (看護師)	・医師：西田淳 ・看護師：水野英子、川端聡恵 ・介護福祉士：森諒 ・療法士：後藤洸貴 ・社会福祉士：内山安寿佳 ・薬剤師：鳴川貴司、滝浪素由	1時間 /回/月
自分らしく生きるを支援するPJ	鈴木翔 (療法士)	・看護師：荒木麻美、村松亜由美、片岡祐希、水野英子 ・療法士：辻昌伸 ・社会福祉士：福島順子 ・袋井市保健師：内山ルデヤ	1時間 /回/2月
始めよう働き方改革、新しい一歩を踏み出そうPJ	佐野真裕子 (療法士)	・看護師：加藤尚世、村松真由香、鈴木麻美、水野英子 ・療法士：則次祐美、中山祥子、後藤洸貴 ・事務：鈴木紀光 ・薬剤師：鳴川貴司、滝浪素由 ・管理栄養士：望月麻妃 ・放射線技師：疋野奈央子 ・検査：鈴木貴之	1時間 /回/月
無駄と不足をなくそうPJ	後藤洸貴 (療法士)	・看護師：松尾はる美、野口孝美、松尾遼太、岡本かおり ・療法士：佐藤一樹、藤田智大 ・事務：松浦啓太	40分/回/ 月

### 【認知症ケアPJ】

開催実績 9回

#### 目標

- ①生活に関する情報収集用紙を全病棟で運用開始
- ②院内デイケア立ち上げる（5件/年間開催）
- ③認知症ケアの知識ベースアップを目的にeラーニングの受講率（60）%を目指す

#### 活動報告

①生活情報用紙を作成し運用を開始。看護師、看護補助者、セラピストを対象としたアンケートで活用状況の把握を行った。職員の80%は生活情報用紙を認識しており、積極的に活用しているのは30%であった。活用の内訳は、ケアプランやコミュニケーション、カンファレンス、退院支援、余暇活動に用いられていた。活用機会が低いことがわかったため、生活情報用紙の活用できる機会を増やしてゆく必要がある。

②院内デイケアの開催は、コロナ感染症の影響もあり、病棟で3回、院内全体で1回の計4回実施した。院内全体で実施したクリスマスコンサートは、袋井商業高校吹奏楽部や利用者満足度向上委員会の協力も得て開催できた。長期間療養している患者も多く、参加している方の表情から、季節行事や音楽刺激は良い支援と

なった。院内での活動は、感染状況により開催中止等の制限が生じるため、次年度は各病棟での開催とする。

③eラーニング受講率をあげるため、案内にQRコードを添付し、リマインダーも実施したが目標の60%には至らなかった。未受講の理由の大半は「忘れていた」であった。通年で50%程度の受講率であり、職員の自主性に任せている現状では、目標達成は難しいと思われる。院内職員が受講できる開催方法・内容を検討して次年度は実施したい。

### 【緩和・看取りPJ】

開催実績 8回

#### 目標

- ①緩和・看取りケアの「あるべき姿」を明確にし、取り組むべきことを見出せる。
  - ・メンバーそれぞれが考える「緩和・看取りケア」について語り合う
  - ・PJが目指す「あるべき姿」を明確にする
  - ・「あるべき姿」と現状から、今後の活動計画を立案する
- ②PJメンバーおよび病院職員が緩和・看取りケアへの

理解を深めることが出来る。

- ・ホスピスへの訪問研修
- ・専門看護師を招いての研修開催

#### 活動報告

PJ 立ち上げ初年度

①メンバー同士の語りから「その人らしさを大切にしたいケア」の実践が重要と共通認識=あるべき姿の明確化を図った。

②聖隷三方原病院ホスピス科への見学研修を実施（9月21日）。PJメンバーが実際にホスピスで行われているケアを見て学ぶことができた。

院内職員の緩和・看取りに関する知識向上、およびホスピス見学の報告を目的に、PJ主催の勉強会を実施した（12月12日）。

### 【自分らしく生きるを支援する PJ (ACP)】

開催実績 8回

#### 目標

- ①院内にこころのノートを4カ所以上設置する
- ②院外勉強会への参画 1回/年以上
- ③こころのノートの配布 100冊以上

#### 活動報告

- ①6カ所に設置（回復期病棟1ヶ所、一般病棟2ヶ所、療養病棟1ヶ所、外来2ヶ所）
- ②5回/年：講演（北部、中部、南部、浅羽 各圏域1回、睦サロン）
- ③249冊

### 【始めよう働き方改革、新しい一歩を踏み出そう PJ】

開催実績：5回

#### 目標

- ①時間外労働の低減につながる業務改善：各職場1つ以上
- ②腰痛軽減の対策：職員への腰痛予防に対する啓発活動（年間3件以上）

#### 活動報告

・2022年度より発足

- ①各病棟、部署ごとに目標設定し活動開始  
回復期：申し送り時間10%削減  
一般：2リーダー体制の評価と修正  
療養：日勤看護師の業務効率評価と修正、2リーダー体制模索  
事務課：年間360時間以内の時間外労働、業務量の平準化  
リハビリ：情報収集時間・資料作成時間削減

薬局・放射線：休日緊急時の体制構築（当番制導入）

検査：検体輸送方法の検討と周知

栄養：褥瘡回診シートを栄養管理計画書に情報集約

#### ②ラクニエ活用促進（装着体験の実施）

腰痛予防に対する啓発活動

- ・腰痛予防体操ポスター掲示
- ・腰痛動画デスクネット配信

腰痛アンケートの修正、衛生委員会へ管理委譲

### 【無駄と不足をなくそう PJ】

開催実績：4回

#### 目標

- ①車椅子・歩行器の管理方法の統一
- ②車椅子・歩行器の点検方法の確立

#### 活動報告

- ・車椅子・歩行器の管理方法を統一し、PC上でのエクセル表を用いて把握できるように変更した。
  - ・車椅子・歩行器の点検を、チェック表を作成し、それに従って行う運用を周知・実施した。
- ①昨年度に管理番号を統一したものを作成したが、各病棟での車椅子・歩行器の管理方法が病棟ごとに統一されていなかったため、各病棟でエクセル表を使用し、統一する運用とし、2023年5月8日より、運用を開始した。また、各病棟に車椅子・歩行器の管理方法についての問い合わせ窓口となるスタッフ（看護師・療法士）を配置した。
  - ②車椅子・歩行器の使用前、使用後に点検を行えるようにチェックリストを作成した。  
車椅子・歩行器をチェック表を用いて、定期的に点検し、車椅子・歩行器を安全に使用できるように日常的に点検できる体制を整えた。  
また、一定期間使用していない車椅子・歩行器や一定期間使用し続けている車椅子・歩行器に関しては、定期点検（4ヶ月毎）を導入した。

#### 結果

- ①院内での車椅子・歩行器の統一：達成
- ②車椅子・歩行器の点検方法の確立：達成

■ NR 責任者会 1回/2か月 1時間

看護部	春日三千代、松尾はる美、渡邊真智子、鈴木寿子
リハビリテーション室	豊田貴信、佐野真裕子、松浦万裕子、森下直彦、岡田史郎、鈴木翔

■ NR 協働委員会

	委員長	メンバー	備考
NR 感染	鈴木寿子	・看護師：平野文、村山詩織、エバンヘリスタマクスロイパネル 植村尚美 ・療法士：橋内ひとみ、鈴木翔、長田圭太郎	1時間 /回/月
NR 医療安全	松尾はる美	・看護師：水野英子、三重順子、阿部麻美子 ・療法士：則次祐美、岡田史郎 ・薬剤師：鳴川貴司、10月～滝浪素由	1時間 /回/月
NR 教育	豊田貴信	・看護師：渡邊真智子、中崎彰子、戸塚なつ子、 ・介護福祉士：鈴木美帆子 ・療法士：森下直彦、佐野真裕子、鈴木明日香	1時間 /回/月

【NR 管理者会】

開催実績 5回

審議・検討内容

- ・各委員会、病棟の目標を NR で設立
- ・NR 協働における運営補助

目標（方針）

- ・利用者の“その人らしさ”を実現するため、療養と生活場面で質の高い支援をする
- ・目標設定の考慮点
  - ① 医療サービスの質改善
  - ② 業務の効率化
  - ③ 効果判定（アウトカム）

活動報告

- ・中間評価報告会とワークショップの開催
- ・診療録の記録タイトルを細分化
- ・カンファレンス規約の文書規約化
- ・文書管理に Jonsen 4 分割表を導入し活用
- ・NR 体制の目標管理

【NR 感染委員会】

開催実績 8回

審議・検討内容

- ・院内感染対策委員会と連携し、NR 協働し感染予防対策の推進と標準化を図る
- ・継続的に感染対策における啓発活動を行い、療養生活の場において安全な環境を提供する。

目標

- ・院内感染対策委員会と連携し、自職場の感染に関する課題を抽出し環境改善できるよう推進する
- ・適切な手指衛生を実施し感染を予防する

（1 患者あたり使用回数病棟 8 回、外来・リハ 2 回）  
活動報告

- ・各職場で感染に関する課題を抽出
- 3 階病棟：毎食前の手洗いの習慣化
- 4 階病棟：ナースিংカートの拭き上げの徹底
- 5 階病棟：オムツ、ベッド柵等の床置き
- ・ICT ラウンドへの参加（ICT からの FB）
- ・手指衛星方法の周知（院内感染研修）
- ・1 患者あたりの手指衛星使用回数の管理  
（平均病棟 4.2 回、外来 1.3 回、リハ 1.0 回）

委員長 鈴木寿子

【NR 医療安全委員会】

開催実績 10回

審議・検討内容

- ・患者に安全な療養生活を提供するための取り組みを確実に遂行する

目標

- ・医療安全管理委員会と協働し多職種の視点で分析した対策を実践できるように支援する
- ・MRM 周知をマニュアル遵守に向けた取り組みを遂行できる

活動報告

- ・各部署から IA 事例を抽出。分析手法を学びながら手法を変えて対策の検討をした
- 3a 以上の転倒転落：13 件/119 件中
- ・医療安全管理委員会と連携（報告・相談）
- ・医療安全講習会の企画への参画
- ・転倒転落予防の動画修正（体操動画）と啓蒙
- ・内服ステルスラウンド実施と与薬手順の周知
- ・酸素のつなぎかえチェックのラウンド実施

- ・デバイス表示の運用統一

委員長 松尾はる美

## 【NR 教育委員会】

開催実績 11回

審議・検討内容

- ・NR 協働の運営基礎となる「教育システム」の構築
- ・質の高いチーム医療を提供できる職員を育成する

目標

- ・22 年度振り返りを踏まえた次年度研修の計画立案
- ・「協働」マインド醸成に向けた調査を実施
- ・チーム医療を推進できるスタッフの育成

活動報告

- ・2023 年度新入職員研修の研修実施
- ・2024 年度新入職員研修の企画立案と計画書作成
- ・研修の効果判定方法の検討と確定(アンケート調査)
- ・協働マインド醸成についてのアンケート調査実施  
アンケート結果から 2024 年度の目標を抽出
- ・1～3 年目職員に向けた研修計画の検討

委員長 豊田貴信

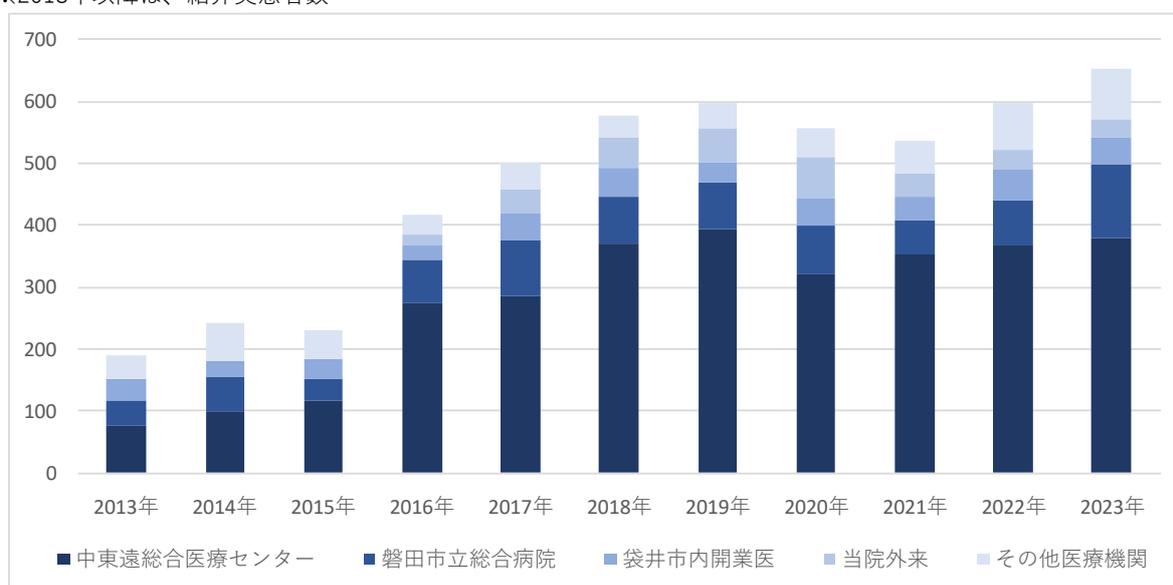
## 病院統計（入院診療）

### ■入院紹介件数

（単位：件）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
中東遠総合医療センター	77	99	118	274	285	369	392	322	352	366	380
磐田市立総合病院	39	55	35	70	91	78	78	77	56	74	119
袋井市内開業医	36	28	30	24	44	45	31	43	39	48	44
当院外来	0	0	0	17	38	50	55	68	38	34	29
その他医療機関	39	59	48	32	42	36	42	47	51	76	79
稼働病床数(単位：床)	50	86	86	123	137	150	150	150	150	150	150
病床稼働率	53.0%	69.3%	75.9%	72.7%	85.3%	81.1%	83.1%	84.0%	83.2%	83.1%	89.4%

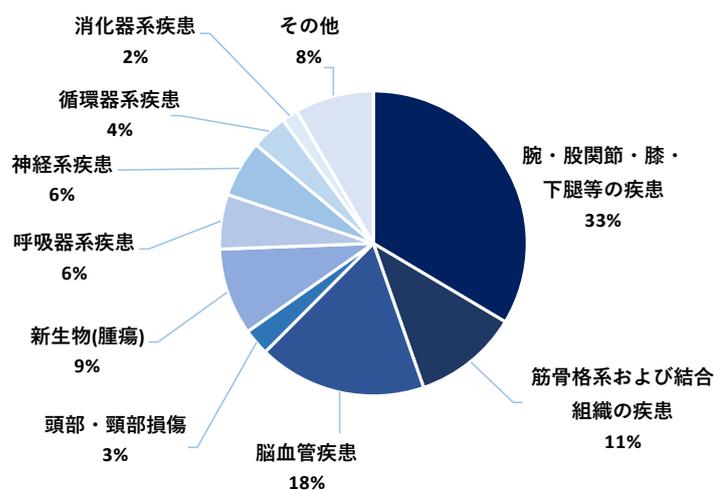
※2018年以降は、紹介実患者数



### ■入院患者 主な疾患別割合

（単位：％）

疾患名	割合
腕・股関節・膝・下腿等の疾患	33.6
筋骨格系および結合組織の疾患	11.1
脳血管疾患	17.7
頭部・頸部損傷	2.8
新生物(腫瘍)	9.2
呼吸器系疾患	5.8
神経系疾患	6.0
循環器系疾患	3.8
消化器系疾患	1.7
その他	8.3
計	100



### ■病棟別 入院延患者数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
回復期病棟	-	-	-	10,239	11,107	12,846	13,456	14,075	14,884	14,978	16,671
一般病棟	8,048	11,920	11,597	11,988	15,918	15,713	16,732	15,603	14,929	14,987	15,480
療養病棟	-	1,027	12,304	13,534	15,954	15,822	15,440	16,293	15,727	15,492	16,912
全病棟延患者数	8,048	12,947	23,901	35,761	42,979	44,381	45,628	45,971	45,540	45,457	49,063
1日当たり患者数	22	35	65	98	118	122	125	126	125	125	134
病床稼働率	53.0%	69.3%	75.9%	72.7%	85.3%	81.1%	83.1%	84.0%	83.2%	83.1%	89.4%

### ■病棟別入院患者数（2023年度）

（単位：人）

病棟	入院	退院	一日平均	延人数
回復期病棟	259	271	45.5	16,671
一般病棟	391	348	42.3	15,480
療養病棟	1	33	46.2	16,912
全病棟	651	652	134.1	49,063

### ■年齢・居住地別 患者内訳（2023年度）

（単位：人）

	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代～
年齢別延患者数	0	0	801	1,383	2,904	5,038	11,287	19,060	8,590

	袋井市	掛川市	磐田市	森町	浜松市	その他
住居地別延患者数	26,091	12,943	5,778	1,401	970	1,880

### ■リハビリ実績

	2018	2019	2020	2021	2022	2023
リハビリ単位数	5.4	5.8	5.9	6.4	6.1	6
リハビリ効率※	46.5	39	37.1	42.1	44.2	43.9
在宅復帰率	85.2%	84.7%	78.7%	83.8%	80.8%	84.8%

※リハビリテーションの実施により患者の状態がどれだけ改善したかを示す指標

〔FIM利得（退院時と入院時の機能的自立度の差） / （入院日数/リハビリ算定上限日数）〕

### ■一人一日当たりリハビリ単位数（2023年度）

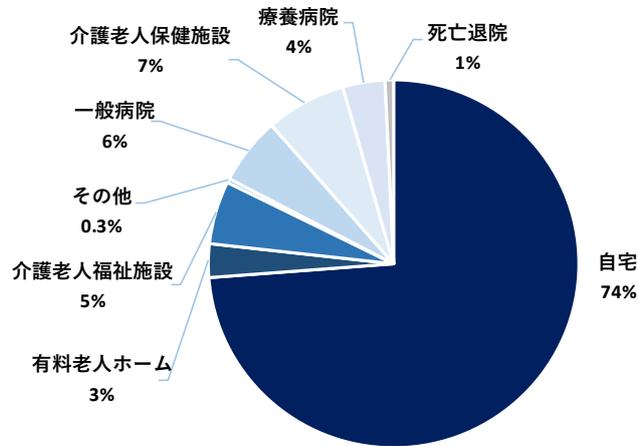
	回復期病棟	一般病棟	療養病棟
一人一日当たり リハビリ単位数	6.0	2.9	0.9

## ■病棟別転帰（2023年度）

### 【回復期リハビリテーション病棟】

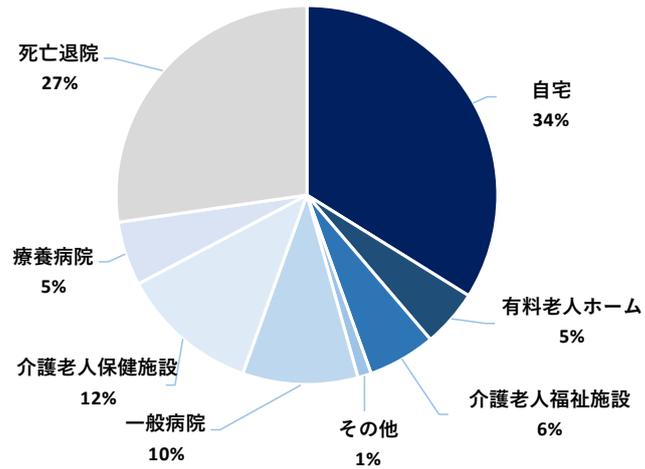
退院先	件数
自宅	200※
有料老人ホーム	8
介護老人福祉施設	15
その他	1
一般病院	16
介護老人保健施設	19
療養病院	10
死亡退院	2
総数	271
在宅復帰率	84.7%

※  は自宅退院扱い



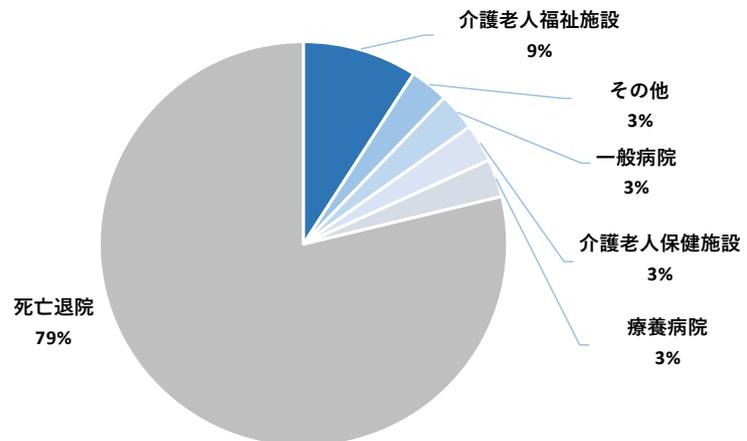
### 【一般病棟】

退院先	件数
自宅	118
有料老人ホーム	17
介護老人福祉施設	20
その他	4
一般病院	34
介護老人保健施設	41
療養病院	19
死亡退院	95
総数	348
在宅復帰率	45.2%



### 【療養病棟】

退院先	件数
介護老人福祉施設	3
その他	1
一般病院	1
介護老人保健施設	1
療養病院	1
死亡退院	26
総数	33



## 病院統計（外来診療・介護保険サービス等）

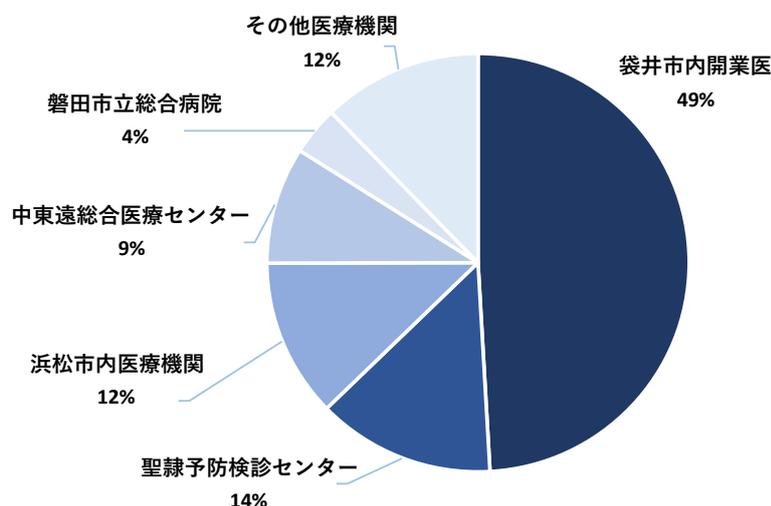
### ■外来患者数推移

（単位：人）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
外来延患者数	4,628	12,985	16,248	17,560	16,609	15,433	14,549	13,527	12,847	10,346	11,237
外来日数	202	244	243	243	244	244	240	243	242	243	243
1日当たり患者数	22.9	53.2	66.9	72.3	68.1	63.3	60.6	55.7	53.1	42.6	46.2

### ■外来紹介件数

	2023年
袋井市内開業医	353
聖隷予防検診センター	98
浜松市内医療機関	88
中東遠総合医療センター	65
磐田市立総合病院	27
その他医療機関	88
総数	719



### ■科別外来患者延数（2023年度）

（単位：人）

診療科	初診	再診	一日平均	延人数
内科	1,179	3,636	19.8	4,815
脳神経外科	656	3,856	18.6	4,512
整形外科	62	284	1.4	346
リハビリテーション科	23	881	3.7	904
耳鼻咽喉科	170	490	2.7	660
合計	2,090	9,147	46.2	11,237

### ■撮影装置の利用状況

CT	2019	2020	2021	2022	2023
入院	202	188	203	315	325
外来	452	296	274	326	334
委託	144	196	176	169	391
合計	798	680	653	807	1,050

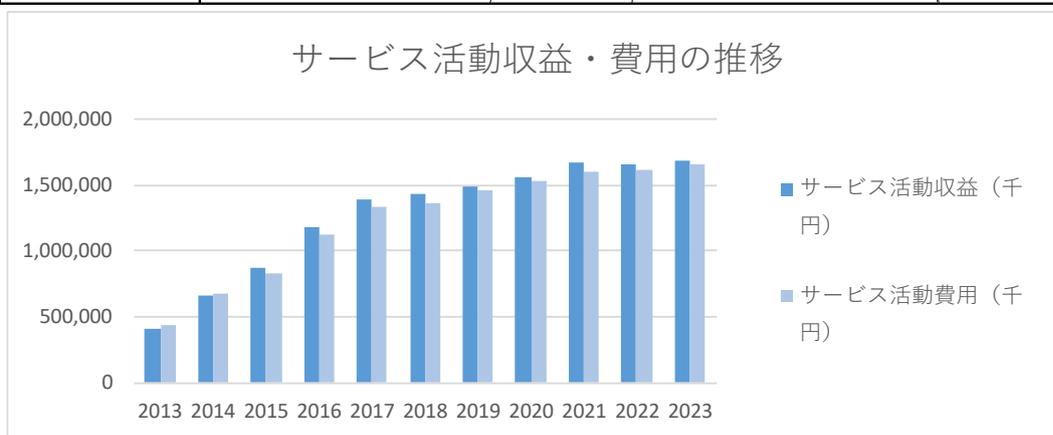
MRI	2019	2020	2021	2022	2023
入院	48	66	70	115	131
外来	839	812	868	750	784
委託	118	113	100	297	543
合計	1,005	991	1,038	1,162	1,458

### ■訪問リハビリテーション実績

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
実利用者数（人）	187	445	599	671	774
提供単位数（回）	2,371	5,627	8,247	9,504	10,535

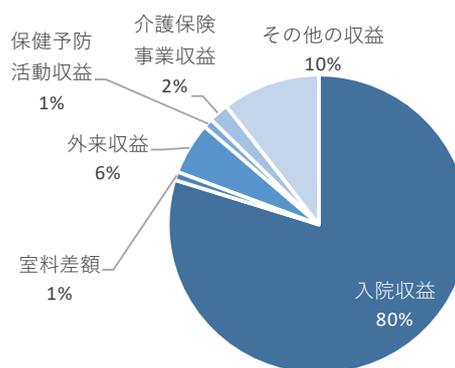
■ サービス活動収益・費用の推移

年度	サービス活動収益 (千円)	対前年比	サービス活動費用 (千円)	対前年比
2013	405,519	-	437,840	-
2014	652,963	161.0%	673,216	153.8%
2015	864,795	132.4%	832,692	125.8%
2016	1,174,679	135.8%	1,127,888	135.5%
2017	1,385,375	117.9%	1,327,469	117.7%
2018	1,424,215	102.8%	1,364,870	102.8%
2019	1,490,010	104.6%	1,459,927	107.0%
2020	1,552,278	104.2%	1,527,995	104.7%
2021	1,667,100	107.4%	1,600,190	104.7%
2022	1,661,016	99.6%	1,606,897	100.4%
2023	1,684,546	101.4%	1,651,544	102.8%

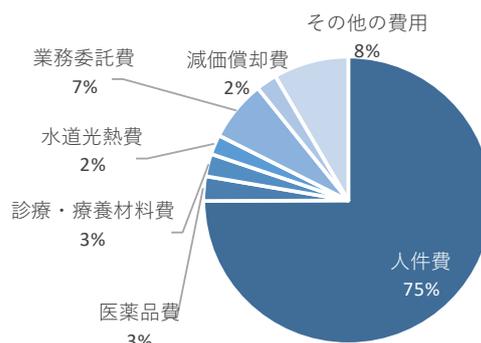


■ サービス活動収益・費用の内訳 (2023年度)

	サービス活動収益 (千円)	占有率
入院収益	1,344,438	79.8%
室料差額	15,435	0.9%
外来収益	94,546	5.6%
保健予防活動収益	17,063	1.0%
介護保険事業収益	36,053	2.1%
その他の収益	177,011	10.6%



	サービス活動費用 (千円)	対医収比
人件費	1,237,643	73.5%
医薬品費	45,592	2.7%
診療・療養材料費	41,888	2.5%
水道光熱費	36,658	2.1%
業務委託費	112,426	6.7%
減価償却費	38,705	2.3%
その他の費用	138,632	8.2%



患者満足度調査結果

■調査期間

外来 2023年10月23日～10月27日  
 入院 2023年10月23日～11月3日

■回収枚数

	外来	入院
配布	147	120
回収	147	44
回収率	100.0%	36.7%

■性別

	外来	入院
男性	48	19
女性	36	21
未記入	63	4

■調査結果（抜粋）

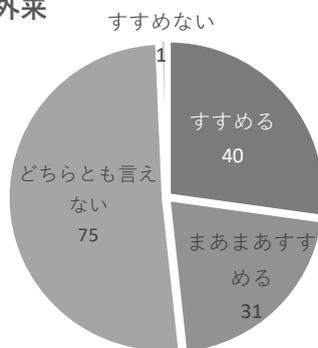
●来院の理由について

	外来	入院
評判が良い	12	3
自宅に近い	34	14
他院から勧められた	11	20
以前よりかかっている	24	2
ホームページ・広報誌を見て	4	0
未記入	62	5

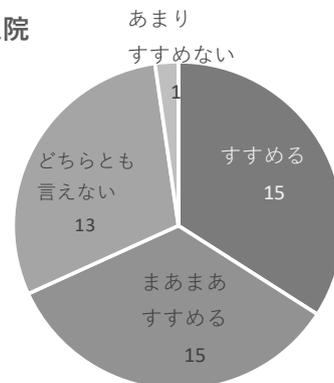
●あなたの親しい方にも当院をすすめたいと思いますか(総合評価)

	外来	入院
すすめる	40	15
まあまあすすめる	31	15
どちらとも言えない	75	13
あまりすすめない	0	1
すすめない	1	0

外来



入院



## 新型コロナウイルス感染症への対応記録

- 2020年2月
  - ・ 袋井市にて第一回感染症対策本部会議が開催（21日）
  - ・ 袋井市にて3月4日から公立小中学校の休校が決定（28日）
  - ・ 当院における児童の一時預かりを決定。期間は3月2日～春休み前まで（28日）
- 3月
  - ・ 県内2例目の患者が袋井市内のショッピングセンターを訪れたことが公表（10日）
  - ・ 児童の一時預かりを終了。延べ28名。（19日）
  - ・ 面会制限開始（23日）
- 4月
  - ・ 国による緊急事態宣言（7日）、全国に拡大（16日）→5月25日解除
- 10月
  - ・ 発熱外来の開始
- 11月
  - ・ 発熱等診療医療機関の指定（11月5日付）
- 2021年4月
  - ・ 新型コロナワクチン集団接種開始（4月16日）
- 7月
  - ・ ホテル療養への看護師派遣
- 2022年2月
  - ・ 自宅療養協力医療機関として電話による健康観察を開始→2023年4月終了
- 7月
  - ・ 3階病棟で院内クラスター発生（期間：7月16日～8月3日）
- 8月
  - ・ 5階病棟で院内クラスター発生（期間：8月19日～8月31日）
- 12月
  - ・ 3階病棟で院内クラスター発生（期間：12月10日～12月22日）
- 2023年5月
  - ・ 新型コロナウイルス 感染症分類5類へ変更
- 2024年3月
  - ・ 新型コロナワクチン集団接種終了（23日）総接種件数：48,933回
  - ・ 発熱外来は継続中

## センター機能 活動報告

センター機能	室長	メンバー
医療安全管理室	春日三千代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師：春日三千代</li> <li>・薬剤師：鳴川貴司（10月より滝浪素由）</li> <li>・放射線技師：疋野奈央子（事務局）</li> </ul>
感染管理室	春日三千代	<p>【ICT（感染制御チーム）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師：西田淳（ICD）</li> <li>・看護師：鈴木寿子、植村尚美</li> <li>・薬剤師：鳴川貴司（10月より滝浪素由）</li> <li>・検査技師：鈴木貴之（事務局）</li> </ul>
退院支援室	春日三千代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師：春日三千代、鈴木恵子（専任）</li> <li>・社会福祉士：吉澤文美（専従）、内山安寿佳、福島順子</li> <li>・事務：黒崎歩実果</li> </ul>
在宅支援室	望月亮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師：望月亮</li> <li>・看護師：春日三千代、松尾はる美、水野英子、荒木麻美、大庭菜実子</li> <li>・療法士：豊田貴信、佐野真裕子、橘内ひとみ</li> <li>・社会福祉士：内山安寿佳</li> <li>・事務：梶間弘美、松井克章、増澤友紀、溝口眞琴、平岩佳奈美</li> </ul>

### 【医療安全管理室】

#### 目標

- ・IA レポートを活用した医療事故防止対策
- ・有事の連絡対応
- ・医療安全に係る情報共有
- ・NR 医療安全委員会と連携した医療安全推進活動

#### 活動報告

- ・IA 事例の精査と対策立案、経過観察
- ・医療安全管理委員会の議案検討
- ・医療安全ニュース発行（12回）

### 【感染管理室】

#### 目標

- ・感染に関する職員教育・研修や、院内感染の状況把握、対策周知に関する業務を、ICT と連携して行う

#### 活動報告

- ・院内感染対策研修会の企画、開催  
全職員参加必修2回
- ・院内感染対策ラウンド  
病棟は毎週、他職場は月1回程度実施  
フィードバック、指摘事項の改善状況の確認
- ・感染レポート作成（毎週）  
検査依頼、微生物検出状況の報告

#### 耐性菌保菌状況の報告

- ・アンチバイオグラムの作成
- ・中東遠感染対策ネットワーク参加  
6回参加
- ・中東遠総合医療センターICD・ICNによる感染対策院内巡視の実施（7月31日）
- ・新型コロナ病棟発生対応  
4月・8月・9月・12月・2024年2月

### 【退院支援室】

#### 目標

退院困難な要因を有する患者に対し、退院後も住み慣れた地域での生活や必要な医療の継続できるように、地域の医療・介護・福祉施設と連携を取り、患者及び家族の支援を行う。

#### 活動報告

- ・転院相談の段階から地域医療連携室と連携して、退院困難な要因を有する患者を把握し、入院初期の段階から病棟看護師と共に退院支援を行った。
- ・病棟看護師が在宅退院の患者の退院前訪問や退院後にテレホンフォローアップを行い、退院後も住み慣れた地域での暮らしを継続できるように患者家族の支援を行った。
- ・退院支援室として毎週1回リハビリカンファレンス

と退院支援カンファレンスに参画し、多職種と共に退院後の生活について検討した。

- ・医療介護連携連絡会議に参加し、介護支援専門員と協力して退院後の生活状況のフィードバックの充実について検討した。袋井市内の居宅会議支援事業所や地域包括支援センターの協力を得て、当院退院後に困ったこと、退院支援の充実を図るための意見等についてアンケート聴取した。2024年4月より看護サマリを使用したフィードバックを開始した。

## 【在宅支援室】

### 目標

- ・要介護認定者に過不足なく適切な介護サービスを提供する。

### 活動報告

『地域住民が、自宅で最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』

と掲げ、2023年度は上記目標を目指し、訪問診療・退院支援・訪問リハの3Gで活動

#### ≪訪問診療グループ≫

- ・嚥下内視鏡検査実施
- ・ボトックス注射実施
- ・スタッフ向け勉強会の開催
- ・浜松市リハビリテーション病院より医師、社会福祉士見学受け入れ

#### ≪退院支援グループ≫

- ・訪問看護出向事業に参加。11月～12月訪問看護ステーションわずか1名出向。
- ・訪問看護同行研修に11月～12月看護師3名参加
- ・袋井市医療介護連携連絡会年4回開催
- ・退院前カンファレンスの継続開催
- ・ラダーレベル研修年3回開催

#### ≪訪問リハグループ≫

- ・ルート自動作成ソフト（ZEST）導入
- ・リハビリマネジメント加算算定開始
- ・リハビリ会議の実施
- ・感染症、非常災害マニュアルの整備
- ・ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会の開催2回

【診療部】

■診療科

- ・耳鼻咽喉科：1名
- ・脳神経外科：2名
- ・内科：2名
- ・リハビリテーション科：1名
- ・整形外科：非常勤2名（聖隷浜松病院）

■振り返り

病床稼働が過去最高となった2023年度だったが、とくに診療体制を変えることなく継続できた。各位の尽力に感謝したい。

（トピックス）

- ・耳鼻咽喉科

週2日の外来とともに、終末期の頭頸部がん等も含め入院患者の受け入れを継続した。袋井市からヒアリングフレイルや補聴器助成に関する相談を受け、補聴器相談医としての診療ができる聴力検査機器の導入を検討した。地域での講演活動は2回行った。

- ・脳神経外科

5月、外来で顔面痙攣に対するボツリヌス療法を開始した。

急性期病院への訪問により、病院間で担当医師の顔の見える連携強化を図る取り組みを継続した。竹原部長が発起人となり、掛川市・袋井市3病院合同の「脳卒中市民講座」を開催、一般市民約130名の参加があった。

2021年12月より、事業団主催の看護師の特定行為研修（気管カニューレ交換実習）の受け入れを継続している。

- ・内科

新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、医療関連感染制御、発熱外来、新型コロナ患者の診療、ワクチン接種等については必要性に変化なく、対応を継続した。聖隷浜松病院からの支援により10月より大橋医師による外来を開始した。

- ・リハビリテーション科

リハビリテーション医学的観点で在宅主治医を支援する訪問診療は2年目となり、実患者9名、延べ訪問件数は45回（3.8回/月）であった。嚥下内視鏡検査やボツリヌス療法を在宅で安全に行える仕組みを構築した。

嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査の増枠検討、2022年2月に導入した嚥下レントゲン検査（SWxp）は他科の医師にも活用されるようになり、嚥下障害の診断に寄与した。

- ・整形外科

2022年2月より聖隷浜松病院整形外科医師による入院診療支援を開始、急性期病院からの転院例や診療所からの紹介例などを遅滞なく受け入れている。2022年6月から再開した外来診療は、2023年6月に週2回へと増加させることができた。

- ・褥瘡治療

10月よりVAC療法（局所陰圧閉鎖療法）を導入し、従来の治療では難しかった創傷管理が可能となった。事業団主催の看護師の特定行為研修（創傷管理関連）の実習施設としての準備を開始した。

■入外実績

■診療科別延患者数

（単位：人）

診療科	入院	外来
内科（発熱外来含む）	12,412	4,815
※発熱外来	—	667
脳神経外科	14,673	4,512
整形外科	5,025	346
リハビリテーション科	（3階病棟すべて）16,849	904
耳鼻咽喉科	104	660
合計	49,063	11,237

病院長 林 泰広

## 【看護部】

### ■振り返り

2023 年度看護部ワークショップにて「聖隷袋井の看護の柱」を可視化した。当院の患者層の特徴である「高齢者・認知症」「看取り・緩和ケア」、そして、患者がその人らしく生きるための意思決定への支援や日々の看護実践に潜む倫理的課題を解決するための思考を学ぶ「臨床倫理」看護上の問題への介入を記録する「看護過程と看護記録」の4つと組織役割遂行能力を兼ね備えた看護師の育成「看護サービス管理」を加えた5つの柱を基盤に看護部教育計画の再構築を行った。2024年度にむけて看護補助者教育の再考に着手、看護補助者の定着と看護補助者としての患者サービス（質）のさらなる向上に向かう。院外に向けての活動も充実し第14回せいい看護学会学術集会の大会長を看護部長の春日が務めた、学会テーマ「異業種コラボレーションカー私たちの看護の未来」約200人の参加があり盛会裏に終えることができた。さらに、多職種協働により病床稼働率の上昇に取り組み令和5年度静岡県版看護業務の効率化先進事例アワード2023にて最優秀賞を受賞、事業団の功労表彰にも選ばれた。

### ■部門目標

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族にサービスを提供する

ワークショップにて5つの看護の柱が明確となり、2023年4月より既存の研修と新たな研修を加え看護部教育を開始した。「高齢者・認知症」では、高齢者の心身の特徴や取り巻く環境を包括的・全人的に理解するための症状マネジメント研修の実施、既存の入退院支援研修に在宅療養の実際を知るために訪問看護事業所での実地研修を加えた。「看取り・緩和ケア」では、他施設のがん性疼痛看護認定看護師に示唆をもらい終末期看護1～3研修を実施した。また、がん性疼痛看護認定看護師にグリーフケア研修を実施、リハビリ、相談員、医師も参加した。「臨床倫理」においては、聖隷三方原病院看護部倫理研修を受講した。「看護過程と看護記録」においては、ラダーレベルⅠとⅡを対象にした研修計画だけであったが、リーダー役割を担うラダーレベルⅢを対象に計画した。看護部研修の実施回数と受講者の推移は、2021年度10研修延べ受講者44人、2022年度11研修47人、2023年度23研修延べ受講者は142人に昇った。また、2021年度と2022年度は、ラダーⅢ以上を対象とした研修が2つのみであったが、2023年度は急性期病院の看護部倫理研修の受講を含め6つとなった。

2. 安全な組織文化を醸成する

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が2類相当から5類感染症に移行となった。2022年度と比較する職員、患者ともに陽性報告があったが、クラスターへの移行はなかった。NR感染対策委員会が手指衛生や標準予防策、PPEの着脱訓練を継続的に行った。2023年度も全職種あげて患者確認に取り組んだ。患者への影響はなかったが、ひやっとする場面のIA報告もあがった。これらの状況を踏まえインシデントKYTという手法をつかい啓発に取り組んだ。与薬、配膳時の患者と物（薬、提供する食事）の照合を繰り返し指導する。

3. 新しいことに挑戦し続ける組織へと成長する

4階病棟 野田汐織が静岡県訪問看護出向研修に参加した。出向先は訪問看護ステーションすずかけ、期間は9/1～11/30。2023年度に静岡県看護協会にて感染管理認定看護師教育課程（B課程）が開講、係長1名が受講、特定行為研修も修了した。また、4階病棟 渡邊真智子が、特定看護師として2023年6月より活動を開始した。特定行為区分「栄養及び水分管理に係わる薬剤投与」特定行為は1）持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 2）脱水症状に対する輸液による補正。2023年6月から2024年3月末までに10名の患者に指示と手順書が発行された。区分は全て「脱水に伴う輸液による補正」。医行為の実施は、点滴のオーダーが延べ2回、採血のオーダーは1回、脱水の評価としてエコーによるIVC評価を実施した。

4. ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を意識した職場づくりを実現する

産休・育休が年間として10人前後、正職員の採用は思うように進まなかった。その中で病棟間、外来から病棟へ積極的に応援を行った。外来から病棟への応援は年間5人工分であった。

5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する

2022年9月より急性期病院からの転医を1日でも早く受け入れようと病床機能の異なる3つの病棟のベッドを効果的に運用している。その結果、病床稼働率が83.1%から89.4%、1日当たりの患者数も125人から134人となったが時間外勤務は減少した。この行いは「全病棟の病床稼働率向上への取り組みと、迅速な紹介患者の受入れ」として、令和5年度静岡県版看護業務の効率化先進事例アワード2023にて最優秀賞を受賞した。

看護部長 春日 三千代

### 【3 階病棟】

#### ■職場方針

チーム一丸となって最大限の機能を発揮できる地域No.1のリハビリ・病棟生活の提供  
その人らしくいきいきとした暮らしを支援する  
仕事と生活の調和をとり笑顔で活気ある職場づくり

#### ■目標

1. 回復期病棟 10 箇条に沿った視点で看護・介護実践ができる
2. 看護過程がみえる記録を推進する
3. 転倒再発防止 CF 実施率を上げることで受傷を伴う転倒減少を図る
4. スタッフの意識向上により身体拘束が減少する
5. 回復期病棟の教育体制を構築し実践・評価ができる
6. 多職種とともに ICF を用いた CF を行い、FIM 利得向上を図る

#### ■振り返り

1. 回復期病棟 10 箇条に沿った視点で看護・介護実践ができる  
2022 年に引き続きガーグルベースン使用率減少を目標とし定点調査を継続していたが、時間経過とともに意識が薄れ、使用率増加となった。定期的な意識付けが必要であった。看護とリハビリで協働し、リハビリによる病棟訓練の見直しを行い、より効果的な自主練習を患者に提案できるように仕組みを整えた。
2. 看護過程がみえる記録を推進する  
看護記録監査（量的監査）を 9 月に実施した。説明前後の反応の記載や個別性のある看護計画、SOAP 記載が課題となった。排泄表の記入方法変更や入浴時の FIM 評価のタイトルを統一させることで、FIM 評価（排泄コントロールや入浴）の情報共有を看護とリハビリで協働できた。
3. 転倒再発防止 CF 実施率を上げることで受傷を伴う転倒減少を図る  
転倒再発防止 CF は実施率 62%、昨年より増加し、3a 以上の転倒 5 件（うち 3 b 2 件）、転倒再発率 8.8%であり、受傷を伴う転倒は昨年より減少することができた。10 月から KYT カンファレンスを曜日変更し、多職種が参加できるよう調整を行った。また、転倒が多い傾向にあった入院から 2 週間以内の患者を対象者に変更したことで全体の転倒発生数減少に繋がった。入院から 8 週以降の転倒も多い傾向があり、今後の課題である。

4. スタッフの意識向上により身体拘束が減少する

身体拘束 8%と昨年と比較して減少した。毎週行っている身体拘束カンファレンスの開催や、カンファレンスにリハビリや看護補助者が参加できたこともあり、スタッフの意識が向上し、拘束解除にむけた検討を行うことができた。

5. 回復期病棟の教育体制を構築し実践・評価ができる

1 年目、2 年目に対して年間スケジュールに沿って実施できた。1 年目は他職場研修により未経験の技術を補うことができた。院内外研修は看護部クリニカルラダーに沿って参加できた。

6. 多職種とともに ICF を用いた CF を行い、FIM 利得向上を図る

FIM 利得は 22.4 と昨年より増加した。ICF の勉強会を 12 月に開催し、課題を明確にするために各専門職がどんな情報を以てカンファレンスに望むべきかを再確認する場となった。今後は退院後の生活を見据えた療養生活を支援するために、より課題を具体化できるとよい。また、FIM 利得向上にむけた研究を学会発表し、研究から入院 1 週間後に看護とリハビリの目標の擦り合わせを図ることが課題と分かった。看護、リハビリで外部の FIM 講習会へ参加し、講習会参加者による FIM 勉強会を 2 月に開催した。

#### ■まとめ

2023 年度は看護とリハビリの NR 協働 2 年目であった。組織体制を変更し、各係にリハビリスタッフが参加、リハビリのリーダー体制をとった。それにより NR 協働の意識が高まり、NR 目標を設定して取り組むことができた。現在回りハ算定 3 を取得しているが、回りハ算定 1 取得を目指して取り組んでいる。より重症な患者をいかにスムーズに受け入れ、かつ ADL を挙げていくかが求められている。そのためには円滑な退院調整や業務の簡略化が必要である。回復期病棟として退院後を見据えた、その人らしくいきいきとした生活ができるように、次年度も多職種で連携を図り取り組んでいく。

課長 松尾 はる美

## 【4 階病棟】

### ■職場方針

患者や家族のニーズを捉え、その人らしい選択や生活ができるケアを提供する

### ■目標

1. 看護師と療法士が協働し質の高いサービスを提供する
2. 専門職として自律した実践のための挑戦をする
3. 自分も相手も尊重するコミュニケーションで共に学び合う

### ■振り返り

NR 協働の体制で病棟を運営しはじめ、2 年目を迎えた年であった。職場目標に加え、「協働の意義を認識し、実践における協働を推進する」という NR 協働の目標を掲げスタートした。5 つの係活動、3 つの質活動において、年度当初から活発な活動が開始された。2022 年度に試行錯誤しながら互いの職種を理解し尊重し、協働の基盤ができた上で今年度の活動であったと振り返る。

2023 年 3 月から、看護方式をチームナーシングと担当看護師の併用を維持しながら、これまでの 1 チーム制を改め 2 チーム制にした。平日日勤のリーダーを 2 名体制としたことで、リーダーがベッドサイドで患者の状況を把握する機会の増加や、若手リーダーが先輩リーダーの実践を間近で見ることができ、タイムリーにリーダー OJT を受けられる基盤ができた。しかしながら、メンバーが 2 チームになることで、他のチームの患者を把握しにくい状況が生まれた。チーム編成について再検討を行い、リーダー 2 名体制は継続するものの、メンバーは 1 チームで受け持ちをする方針とした。これにより、今年度 3 名の看護師が日勤リーダーの導入が叶い、超過勤務が年度後半から大幅に減少し、超過勤務の常態化が是正された。

倫理カンファレンスを実施していることで、スタッフの倫理的感受性の高まりを感じる事例もあった。治療の経過で開始された経鼻経管栄養は延命治療であるのか否か。という議論は、病棟での倫理カンファレンスを経て院内の倫理委員会で検討する事例となった。様々な意見を踏まえ、担当看護師を中心に家族と幾度となく話し合いを行った。病棟でそれぞれの倫理観を忌憚なく話し合える風土は誇らしく、互いの倫理観を認め合う事の重要性を認識する貴重な学びとなる事例であった。2024 年度は NR 協働体制の 3 年目であり、2022 年度に掲げた「看護師と療法士の協働のためのビジョン 2024」の最終年度となる。

アウトカムを意識し、成果を確認していきたい。

以下には、看護部部門目標に対する 4 階病棟の実践を評価し、項目毎に記述する。

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族にサービスを提供する

質指標として掲げる転倒について、2023 年度の転倒総数は 43 件と 2022 年度の 64 件から減少した。退院前訪問は 8 件と目標の 12 件に未達、退院後訪問は 5 件で目標を達成した。院内褥瘡発生数は 16 件と増加した。内科疾患の増加や、物品の不足が影響し、課題と認識した。

特定看護師が 6 月から活動を開始。ベッドサイドでの OJT に加え、フィジカルアセスメントミニ講座を開講。のべ 29 名のスタッフが参加した。

2. 安全な組織文化を醸成する

患者誤認防止の取り組みとして、安全係が注射実施時の 3 点確認の唱和を呼びかけた。テストを実施し全ての看護師が 3 点確認を理解し、実施した。感染について、2 度の COVID-19 患者の受け入れ、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)患者の受け入れがあったが、院内クラスターに至らず対応を終えた。

患者安全の視点では、コミュニケーションに注力した。アサーティブコミュニケーションについて、NR 教育係が勉強会を開催した。病棟内での倫理事例検討会は合計 4 回開催した。また、6 名の看護師が聖隷三方原病院の倫理研修に参加し、病棟スタッフの倫理的感受性が高まるきっかけとなった。

3. 新しいことに挑戦しつづける組織へと成長する

看護方式を見直した。緩和看取りの質係が院外から講師を招き、タクティールケアの研修を企画、運営した。NR 協働は今年度の目標とする「業務上の協働」を療法士の早番導入という形で体現した。

4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する

NR 記録係が看護師と療法士の重複した記録を整備し、記録時間を削減した。2 リーダー制を導入したことで、超過勤務が削減された。

5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する

4 月から 12 月まで毎週金曜日に訪問看護師と合同カンファレンスを実施し、訪問看護師のアドバースを活かし、看護過程の展開を行った。カンファレンスは 24 件行った。加えて、スタッフ 1 名が訪問看護ステーションすずかけに出向した。病棟全体の退院支援の質向上に働きかけている。

課長 渡邊 真智子

## 【5 階病棟】

### ■NR方針

1. 患者・家族の尊厳を守り、医師を尊重した療養環境を提供する。
2. 患者が安全な療養生活を送れるよう、専門分野の知識・技術を高める
3. 互いの向上心に働きかけ、一人ひとりが互い。

### ■目標

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族サービスを提供する
2. 安全な組織文化を醸成する
3. 新しいことに挑戦しづける組織へと成長する
4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する
5. 多職種・地域と連携する中で看護の力を最大限に発揮する

### ■振り返り

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族サービスを提供する

スキンテア件数は全体 98 件、介助者要因のスキンテア 3 件で全スキンテアの 3% であり昨年度より減少している。移乗やオムツ交換の勉強会でスキンテア予防について学習した。

意思決定支援では、意思決定支援カンファレンスを 26 件開催し月 2 件以上開催するという目標達成した。また、患者や家族の意思決定を確認するコスモシートを全入院患者に記載することができた。コスモシートの内容を修正、更新する日を設置し患者・家族のタイムリーな情報を得ることができた。聞き取った内容を患者カンファレンスで活用し、日々の看護計画に反映させていくことが今後の課題である。

NR で協働し 9 月オムツ交換、10 月倫理について、11 月移乗、2 月更衣の病棟勉強会を開催した。倫理の勉強会は 4 名のスタッフ（三方原病院で倫理 3 研修に参加した看護職員、倫理に関する研修を修了した療法士）が中心となって 4 分割法を用いて勉強会をおこない知識を深めることができた。今後はより知識を深め、実践で活用していけるよう教育を継続していく。

看護補助者が中心となり、デイケアについてのカンファレンスを対象者 12 名に対し延べ 22 件実施した。患者の個別性を重視したデイケアを提供することができた。

デスカンファレンスは 21 件で 100% 実施できた。今年度はデスカンファレンスの患者・家族の要望に沿った対応ができたか、苦痛・不安に対し緩和ケアが実施できたか、患者は楽しみが持っていたか、患者・家族と看護師の関わりについて、

意思決定のインフォームドコンセントの時期についての 5 項目を振り返った。前述したコスモシートを用いて意思や希望を確認し、その思い寄りそった看護やケアを提供できていることがわかった。

看護記録は、患者の状態にあったタイムリーな看護計画を立案し、個別性のある看護過程を展開するようにスタッフに働きかけ、入院患者の看護計画を見直すことができた。

2. 安全な組織文化を醸成する

医療安全では、IA カンファレンスに病棟の職員と療法士が参加し、看護、リハビリ両方の視点から対策を考えることができた。IA レポートの記載について、より情報を共有しやすいように事故の起こった背景、原因を詳細に記載するよう計画した。

感染管理では、手指消毒を 5 つの適切なタイミングで実施できるよう係が中心となり啓発用の動画を作成し職場内で周知することができた。また、感染防止の取り組みとして交換後のシーツや寝衣、オムツ、ベッド柵などを床に置かないよう移動式のゴミ箱の使用や、ベッドの柵置きを使用するよう周知徹底した。

3. 新しいことに挑戦しづける組織へと成長する

NR 協働となり、療法士と共に係活動をおこなう体制が定着した。

気管カニューレ交換の特定行為研修の受け入れの継続、創傷管理関連の壊死組織の除去・陰圧閉鎖療法受け入れのための準備をおこなった。

4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する

ヘルシーワークプレイスでは、昨年度導入した看護補助者の 2 交代制勤務導入が定着した。2 交代制を導入したことにより、制度利用者が退勤した後の人員確保につなげることができた。勤務時間外での会議を削減するため、病棟会を勤務時間内で開催するようになった。

また、エアマットレスのこちあ結起使用し、ケアの見直しを行い腰痛予防に取り組んだ。

5. 多職種・地域と連携する中で看護の力を最大限に発揮する

ACP のプロジェクト参加や地域の座談会などに参加し情報を共有した。

### ■まとめ

今年度は療養病棟における意思決定支に重きを置き NR で活動をおこなった。患者・家族から得た情報を冠尾・ケアに活かしていくことが今後の課題である。

課長 鈴木 寿子

## 【外来】

### ■職場方針

1. 外来看護の専門職としての役割を発揮する
2. 地域で暮らす患者がその人らしくいきいきと生活できるよう、入り口と出口をシームレスにつなぐ
3. 患者から選ばれる病院を目指す(地域 No.1)

### ■目標と実績・評価

1. 専門職としてフィジカルアセスメント力の向上を図る  
ナースングサポートの活用を推進。それぞれに自分が学びたい項目を選び、その中から外来で受講する項目を決めて受講した。スタッフ同士で受講を促し、受講率は100%となっている。
2. 適切に情報収集、記録をして継続した外来看護を実践する  
診察前に診察記事や看護記録からの情報収集を習慣化した。その結果、診療補助につく看護師や医療相談室に情報提供できた。
3. マニュアル・ルールを遵守した仕事の仕方を身につける  
スタッフが中心となり外来業務マニュアルを修正した。修正後は職場会や回覧で全スタッフと共有した。職場会でメディカルリスクマネジメントマニュアル7項目、院内感染対策マニュアル、防災マニュアルを共有した。マニュアルの存在を知ってもらい、困った時はマニュアルに戻る必要性を周知した。業務中にマニュアルを確認するスタッフの姿も増えた。
4. ガイドラインに基づいた感染管理を行う  
手指消毒の目標使用料を患者1人あたり2回(4ml)とした。手指消毒剤の使用量の可視化をし、毎月結果を共有し繰り返し使用の声かけをした。4月の使用量は患者1人あたり0.61回、3月は1.62回まで上昇した。年間平均使用回数は1.45回であり、目標には達しなかった。正しく感染性廃棄物処理ができるよう処理方法の可視化や正しく破棄できているかをスタッフ全員で確認する活動も行った。
5. 研修や学会へ参加し他スタッフと学びを共有できる  
院外の研修参加者は4名。研修参加件数は6件(感染管理認定看護師教育課程、外来看護師交流会×2名、看護補助者の活用促進のための看護管理者研修、災害看護一般研修、認知症対応力向上研修)、職場内での伝達講習は2件実施した。伝達講習ではグループワー

クを行い自分たちの思いや経験を声に出すことで外来看護のやりがいや喜びを共有する機会となった。

6. 働き方PJと共働し業務のスリム化をはかる  
診察補助者とフリーナースの連携を可視化し、フリーナースへの業務依頼表と業務内容のチェックリストを作成した。その結果、業務の漏れがなくなり申し送りの短縮に繋がった。
7. ACPについて知識を深め患者と共有する  
7月から外来中待合に2箇所『こころのノート』ブースを設置した。2023年7月から2024年3月の間で154枚配布している。
8. 継続看護の意識を持ち行動できる  
フリーナースの業務を可視化し、継続して看護介入ができるように人員配置をした。病棟との連携は退院サマリの活用に加え、退院前カンファレンス2件、退院前面談2件参加できた。訪問リハビリとの連携は毎週火曜日(第1週を除く)のリハビリカンファレンスに参加し、訪問リハビリ継続のためにリハビリ科を受診する患者の情報共有・目標の確認をした。

### ■振り返り

今年度から外来でもチーム活動を取り入れ、院内の委員会やPJの活動と連携した活動をはじめた。デスクネットや職場会を利用して各委員会やPJの活動状況など院内の動きを共有した。看護の継続ができるように病棟での退院前面談や退院前カンファレンスへ参加し、情報収集をすると共に退院前から顔の見える関係が持てるようにした。係長の交代やスタッフの入職・退職がありスタッフの入れ替わりがあったが、外来の看護や業務の質を維持するために外来業務マニュアルを整備し、OJTに活用した。加えて、医師の増員もあり医師とのコミュニケーションに難渋したこともあったが、他職種と連携しながら対応した。

2023年5月より新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類感染症となり、当院の発熱外来の方法も変更されたが、一般外来患者との交差を最小限にするための検討が他職種で重ねられトラブルなく診察を行うことができています。コロナウイルスワクチン接種日数も低減し、診察外の午後の時間を病棟応援や係活動にあてた。病棟への応援時間は1年間で約795時間、人工に換算すると5人工分の応援を行った。

外来係長 水野英子

## 【リハビリテーション室】

### ■職場方針

私たちは、患者と同じ視線を持ち退院後の生活を重視したリハビリテーション医療を提供します

### ■目標

#### 1. 業務効率化による安定稼働

- 1) サービス提供量の充実(患者1人提供量) 回復期 6.3、一般 3.9、療養 0.9 単位
- 2) 療法士1人あたり 17.0 単位/日 取得
- 3) 訪問リハビリ提供量の充実 利用者数 68 名、提供回数 932 回
- 4) 超過勤務時間削減(昨年度比 5%以上)

#### 2. 特色を活かした質の高いサービスを提供

- 1) -1 (回復期) 実績指数 42 以上  
-2 運動 FIM45 点以下の対象者へ機器使用
- 2) -1 (一般病棟) 看護師参加型の退院前訪問指導を 10 件/年以上実施  
-2 資格取得推進 (2 名以上)
- 3) -1 (療養病棟) 倫理 CF 開催 (3 件/年以上)  
-2 介助者要因スキントア(昨年度比 10%減)
- 4) -1 リハビリマネジメント加算取得  
-2 W ワーク導入に向けた運用検討と実践

#### 3. 人材育成に対する支援体制の再編

- 1) OJT 実践と専門職教育課程フローを運用
- 2) 定期評価の導入(テンプレート化の検討)
- 3) 院外学会報告 10 本/年以上
- 4) 研修会、講習会の参加支援(7 件/年以上)
- 5) 訪問リハビリ見学(5 件/年以上)

#### 4. 新たな事業の創出と地域貢献への取り組み

- 1) 地域リハ専門職への OJT (5 件以上)
- 2) 袋井市総合事業における効果判定の検討
- 3) 次世代育成に向けた新たな事業の創出
- 4) 自動車学校との連携 (5 件/年 以上)

### ■振り返り

#### 1. 業務効率化による安定稼働

- 1) 病床高稼働や欠員が影響し、回復期 6.0、一般 2.9、療養 0.9 単位と未達であった。時間的ロスの分析を次年度進めていく。
- 2) 勤務者数は正や業務効率化を図り、16.9 単位/日(有厚除く: PT17.5 / OT17.3 / ST15.8 単位: 摂食合算)を達成した。
- 3) 欠員の影響により対予算で未達であったが、W ワーク制の導入や専従事務 1 名採用、デジタルサービスの導入により、利用者数 65 名、提供回数 870 回、短期集中リ

ハ加算 54 名に留まった。人工数は前年度と同様だが、提供量は 10%増加した。

- 4) 要因分析、超過勤務申請の運用見直しにより入院は 20%減となったが、訪問リハは提供量増加に伴い 10%増加した。

#### 2. 特色を活かした質の高いサービス提供

- 1) 積極的な機器使用や入退院コントロールを可視化したことで実績指数 44.7 と達成
- 2) -1 患者層の影響もあり積極的な訪問指導に至らずに看護師同伴 7 件と未達となった。  
-2 認知症資格更新が 1 名であったが、終末期学会参加、タクティールケア研修会開催を通して質的強化を図った。
- 3) -1 倫理アドバイザー認定者を中心に開催したが、2 件に留まり未達であった。  
-2NR で事例共有や看護補助者と勉強会を開催したことで 12%減少に繋がった。
- 4) リハマネ加算を 11 月に取得。マニュアル等の追加や整備は次年度の課題となった。

#### 3. 人材育成に対する支援体制の再編

- 1) OJT5 件/月以上と達成。教育課程の運用は次年度持ち越し課題となった。
- 2) データベースに向けた検討を開始したが、組織化に至らず持ち越し課題となった。
- 3) 院外学会報告 12 本/年
- 4) 科内で申請フローの作成と運用開始により、学会支援 10 件/年、講習会支援 7 件と達成した。
- 5) 業務調整や見学の支援不十分により、3 件/年と未達となった。

#### 4. 新たな事業の創出と地域貢献への取り組み

- 1) 袋井市総合事業への派遣 40 件/年。袋井市と連携しながら地域リハ推進員の育成に向けて近隣施設の専門職や当院職員への OJT を 5 件/年実施した。また、新たに 2 名が推進員の資格を取得した。
- 2) 袋井市や地域リハ推進員と協議し、袋井市総合事業における効果判定を検討した。2024 年度から効果判定の実践を予定。
- 3) 地域の体操指導者の育成に向けた取り組みを袋井市と協議していたが、進捗はなく持ち越し課題となった。
- 4) 近隣施設への挨拶回りや紹介もあり、高次脳機能障害患者の自動車運転評価を目的とした入院、外来リハ件数が増加。また、自動車学校と会議を通して継続的に連携を取ることで 11 件/年の実績となった。

室長 豊田 貴信

## 【薬剤室】

### ■目標

1. 薬剤管理指導業務の充実
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進
3. 一般名処方加算取得件数の増加
4. 後発医薬品への切り替え

### ■振り返り

1. 薬剤管理指導業務の充実  
190 件/月（非算定件数を含む）の薬剤管理指導件数を目標としていたがコロナワクチンの対応やスタッフの教育等に業務負担がかかり実績としては 153 件/月と目標には届かなかった。しかし、下半期には薬剤室内での業務効率化の取り組みをしたことにより月単位での目標は達成出来た。
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進  
副作用の重篤化回避：3 件  
副作用の未然回避：1 件  
薬物治療効果の向上：3 件  
計 7 件のプレアボイド報告があった。プレアボイド事例については薬剤室内のカンファレンスにて共有することで薬剤室スタッフの知識の向上になった。
3. 一般名処方加算取得件数の増加  
院外処方せんにおける一般名処方加算取得件数を増加させるために、処方マスタの整備を継続した。
4. 後発医薬品への切り替え  
2023 年 6 月から 3 薬剤を後発医薬品に変更した。

薬局長 滝浪 素由

## 【臨床検査室】

### ■目標

1. 検体検査の質の保証
2. 要員の育成
3. 臨床検査室業務の拡充
4. 院内感染対策活動

### ■振り返り

1. 検体検査の質を保ち、向上させるため、検査装置の稼働時点検を正しく実施すること、主要装置については、年 1～2 回の保守点検を実施し、装置の安定稼働に努めた。  
また、測定値の保証のため、外部精度管理調査を受審し、良好な結果を得ている。  
超音波検査装置を更新し、超音波検査画像の質向上を図った。
2. 要員 2 名ともタスクシフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を修了し、特定行為のタスクシフトを可能とした。  
少ない人員のなかで効率よく臨床検査室を運営するため、対応する検査種、需要の多い心臓超音波検査について均一化した。  
また、統計処理や物品管理などの事務業務についても均一化した。
3. 臨床検査室として関わるチーム医療として、N S Tカンファレンスで評価に用いる検体検査項目を医師・看護師と検討し決定した。  
伴い評価表を作成し、情報提供を行った。  
B 型肝炎再活性化への対応として、対象患者の抽出、検査依頼を薬剤室と連携して実施した。（25 件）
4. 院内感染対策委員会への関わりとして、  
・細菌検査依頼状況、微生物検出状況について、委員会への報告、レポートを作成し職員への報告  
・感染ラウンドとして、職場の環境、耐性菌検出患者の療養環境などを確認し、改善の提案、改善状況の確認  
・アンチバイオグラムの作成
5. 新型コロナウイルス感染症への対応として、発熱外来における検査の実施（510 件）、病棟での検体採取と検査を実施した（39 件）。

技師長 鈴木 貴之

## 【画像診断室】

### ■目標

1. 患者の負担軽減と業務効率向上を目的としたタスクシフトに向けた取り組み
2. ニーズに合った、質の高い画像提供
3. 安全で安定した稼働と働きやすい環境整備
4. 地域の公益的な取り組み
5. 業務の振り返り、情報伝達の時間確保

### ■振り返り

1. 診療放射線技師の告示研修は全員受講完了した。これにより、CT、MRI 造影剤投与時の静脈穿刺、造影剤投与を行うことができるようになった。院内では、看護部新人研修の静脈穿刺講義に参加し、実技指導を受けた。現状では穿刺の機会が非常に少ない為、技術向上が難しく、今後の動向に合わせて進めていく。
2. 整形外科、神経内科医師と提供する画像を確認し、ニーズに合わせて変更した。整形外科より、ルートブロックの要望があり、運用整備を行った。また、カンファレンス時に小勉強会を継続して行い、知識と技術のブラッシュアップに努めた。
3. 業務一覧作成。進捗度が可視化された。さらなる業務スリム化を進める。
4. 静岡社会健康医学大学院大学と袋井市が行う予防医学研究事業「ふくけん」のCT、MRI 検査に参画した。2024年2月より袋井市、大学、保健事業部と密に連携しながら運用開始する事ができた。2024.2～3 CT213 件、MRI 117 件実施済。2024年8月まで継続。
5. カンファレンスを隔週水曜午後に定例開催し、昨年は月1回だった撮影振り返りは、記憶があるタイミングで行うことで同様の再撮影は減少しており、効果が表れている。

室長 疋野 奈央子

## 【栄養管理室】

### ■目標

1. 安全で質の高い食事サービスの提供
  - ・ 毎月1回以上のイベント食の企画、栄養部門対抗料理対決への参加を通して調理技術、食事満足度の向上を図る
  - ・ 食品成分表8訂変更に伴う48献立調整
  - ・ 残食の多い上位5献立の見直し
  - ・ 衛生アドバイザー評価92%以上
2. 安全で質の高い医療サービスの提供
  - ・ 時間外労働の低減につながる業務を1つ以上作る
3. 人材育成の推進
  - ・ 栄養部門でのワーキング活動を通し、チームワークや関係構築する力を養う
4. 災害対策の強化
  - ・ 炊き出し、食事配送訓練：1回/年実施
  - ・ 発災から72時間の行動を可視化
  - ・ 各種マニュアルの改訂

### ■振り返り

1. 食材費の高騰に伴う献立調整を行いながらも、まるごとふくろいじもとごはん等イベント食は予定通り実施し、職員食アンケート：味付け丁度良い88.8%と食事満足度は維持できた。残食量の多い献立の見直しは集計に留まった。衛生アドバイザー評価92%（前年度90%）と改善が見られ、委託会社とともに衛生管理の改善に取り組めた。
2. 濃厚流動食の在庫管理の見直しと褥瘡回診に必要な情報を栄養管理計画書へ集約することで、褥瘡回診に参加する時間を捻出し、速やかな栄養介入に繋げることができた。
3. 栄養部門Vision2025を達成するために組織された7つのワーキングの内、当栄養管理室の2名が人材育成WGと職場環境WGのリーダーを務め、栄養部門が抱える課題解決に取り組むとともに、活動を通してリーダーシップ力などを養った。
4. 炊き出しと食事配送訓練を実施することで課題が明確になり、各種マニュアルの改訂も行った。発災から72時間の行動の可視化は今後進めていく。

室長 望月 麻妃

## 【事務課】

### ■目標

1. 患者・近隣施設・学生の琴線に触れる（選ばれる、良さそうな病院だねと思われる）ために創意工夫した、病院実績・病院機能の魅力的な情報提供。
2. 病院の課題・サービスの向上に対して、事務課の枠を飛び出して他職場を巻き込んだ改善策の提案。
3. 超過勤務時間の平坦化による、働きやすい職場環境づくり。
4. 収益アップ（またはコストダウン）・利用者増のための企画提案。
5. 同業他事業所とのベンチマーク、分析データの作成による、病院機能の見える化。

### ■振り返り

1. 開設 10 周年の記念品を市内菓子店と協力して作成した。職員・関係者に配布し、病院全体で記念日を祝うことが出来た。
2. 未来を担う医療従事者の確保・看護補助者の負担軽減を目的に、看護系学校に通う学生アルバイトの採用を開始した。また、高卒新入職員の不安軽減、保護者との信頼関係構築のための就職前説明会を開催した。
3. 回復期リハビリテーション運営会議では、回りハ入院料 1 取得の提案を行い、2026 年 4 月算定開始を目標値として定めた。
4. 病棟課長とともにベッドコントロール会議を定期的で開催するとともに、向こう一週間の空床状況可視化シートを院内発信することで職員の経営参画意識を高め、病床の高稼働・病院経営に貢献した。
5. ネットワーク回線網の切り替えを行うことで電子カルテのレスポンス改善を行い、診療部・看護部の業務改善に寄与した。また、訪問スケジュール管理ソフト ZEST の導入を支援し、訪問リハビリの効率化に貢献するなどデジタル技術の活用にも取り組んだ。
6. 第 14 回せいい看護学会学術集会の事務局を担当し、発表者・展示企業など多くの多くの参加者を集め、成功裏に終えた。
7. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種業務の主導的役割を複数年に渡って担い、2024 年 3 月をもって無事終了することが出来た。
8. 2025 年 12 月の病院機能評価の更新受審審を目指し、プロジェクト・ワーキンググループ案を示すなど、受審キックオフを行った。

課長 松井 克章

## 学術実績（講演・学会発表）

耳鼻咽喉科（病院長）	
区分	交流集会
演題名	中東遠地域の看看連携を考える－理想的な地域共生社会をめざして－
演者・共同演者	林 泰広
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会, 2023.9.16, 静岡
リハビリテーション科	
区分	学会発表
演題名	回復期リハビリテーション病棟での歩行レベル評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討（予備研究）
演者・共同演者	望月亮、豊田貴信、鈴木美穂子、神谷康貴
学会名等	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023, 福岡.
区分	学会発表
演題名	修正嚥下レントゲン検査による飲水評価
演者・共同演者	望月亮, 浅野全子, 村松麻希, 疋野奈央子, 江塚和可子
学会名等	第47回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 2024, 新潟
区分	講演（インタラクティブセッション）
演題名	プライマリ・ケア医とリハビリテーション医のコラボ企画 体で学ぶ高齢者身体機能評価
演者・共同演者	望月亮ら
学会名等	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2023.5.13, ポートメッセ名古屋
区分	講演（シンポジスト）
演題名	“こだわりの生き方・老い方 実現のために” ACP（アドバンス・ケア・プランニング）ノート活用推進県民セミナー
演者・共同演者	望月亮ら（シンポジスト）
学会名等	令和5年度 人生の最終段階における医療・ケア普及啓発事業（県委託事業）, 2024.2.23, 静岡県医師会
看護部	
区分	会長講演
演題名	異業種コラボレーション —あらためて看護の専門性を考える—
演者・共同演者	春日三千代
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会, 2023.9.16, 静岡
区分	シンポジウム 座長
演題名	異業種コラボレーション —WIN・WIN・WIN—
演者・共同演者	春日三千代
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会, 2023.9.16, 静岡
区分	学界発表
演題名	A病棟における内服薬自己管理中の服薬インシデントの傾向と支援方法の検討
演者・共同演者	阿部麻美子
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会, 2023.9.16, 静岡
区分	学会発表
演題名	A病棟におけるADL拡大に向けたチームアプローチの実態と課題
演者・共同演者	稲垣有香
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会 2023.9.16, 静岡
区分	学会発表
演題名	A病棟における看護師が家族に行っている具体的説明～臨死期に焦点をあてて～
演者・共同演者	加藤(八木)茜
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会 2023.9.16, 静岡
区分	学会発表
演題名	ナース・スケジューリングにおけるチーム編成の定量評価の妥当性確認について
演者・共同演者	伊藤賢 <sup>1)</sup> 、渡邊真智子 <sup>2)</sup> 1)静岡大学創造科学技術大学院 2)袋井市立聖隷袋井市民病院
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会 2023.9.16, 静岡
区分	ワークショップ
演題名	医療 MaaS と看護のコラボレーション
演者・共同演者	渡邊真智子、春日三千代 / 浜松看護管理研究会
学会名等	第14回せいいい看護学会学術集会 2023.9.16, 静岡
区分	シンポジスト
演題名	A病棟の転倒再発予防に関する転倒検証プロジェクトの取り組みと職場に与えた影響の一考察
演者・共同演者	村松亜由美
学会名等	第10回日本転倒予防学会学術集会, 2023.10.7-8 京都

区 演 演 学	分 題 者 会	講演 全病棟の病床稼働率向上への取り組みと、迅速な紹介患者の受け入れ 渡邊真智子 2023 静岡県版看護業務効率化アワード表彰式・事例報告会 2024.2.3 静岡
<b>リハビリテーション室</b>		
区 演 演 学	分 題 者 会	講演 聖隷リハビリ部門の今と未来 豊田貴信ら 第 5 回聖隷リハビリテーション学会, 2023.9.17, アクトシティー浜松コンgresセンター
区 演 演 学	分 題 者 会	講演 生活範囲拡大に焦点を当てた訪問リハビリテーションの関わり ～利用終了後も ADL, 生活範囲の拡大, QOL が維持向上できた症例～ 佐野真裕子、長田圭太郎、菅尾美沙、諸井海斗、望月亮 R5 年度静岡県訪問リハビリテーション人材育成研修会（訪問リハ実践報告）, 2023.11.23, 浜松労政会館
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 A 病棟における転倒調査報告～入院時 FIM に着目して～ 岡田史郎、鈴木明日香、藤田智大、吉川紗也加、高井悠加、奥田莉奈、村松亜由美、渡邊真智子 2023 年日本転倒予防学会 第 10 回学術集会, 2023.10.7-8, 京都テレサ
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 生活範囲拡大に焦点を当てた訪問リハビリテーションの関わり ～利用終了後も ADL, 生活範囲の拡大, QOL が維持向上できた症例～ 佐野真裕子、長田圭太郎、菅尾美沙、諸井海斗、望月亮 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2023.11.3-5 シーガイヤコンベンションセンター
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 歩行レベル評価尺度 Walking LEVEL Scale (WaLS) の疾患別信頼性・妥当性の検討 神谷康貴、豊田貴信、鈴木琢弥、籠池康太、北矢大典、小島将吾、望月亮、鈴木美穂子 回復期リハビリテーション病棟協会第 43 回研究大会 in 熊本 2024.3.8-9 熊本城ホール
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 訪問リハビリテーションにて自主練習を見直したことで跛行が改善し、活動範囲の拡大が図れた症例 諸井海斗、菅尾美沙、佐藤一樹、佐野真裕子、高井悠加、長田圭太郎 第 26 回静岡県理学療法学術大会 2023.6.17-18 ふじのくに千本松フォーラムプラサヴェルデ
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 左半側空間無視患者の歩行意欲を訓練に反映し、左側への注意が改善した症例 ～トレッドミルと免荷式リフトを使用して～ 服部勇輝、鈴木琢弥、松井俊明、則次裕美、佐藤一樹、籠池康太、北矢大典、神谷康貴、板倉陽香 第 26 回静岡県理学療法学術大会 2023.6.17-18 ふじのくに千本松フォーラムプラサヴェルデ
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 左視床出血を呈し発症から 3 ヶ月後に長下肢装具を作成し 4 点杖歩行の獲得に難渋した症例 荻原旦彩、鈴木琢弥、服部勇輝、松井俊明、則次裕美、佐藤一樹、籠池康太、夏目陽香、北矢大典、 神谷康貴、村松麻希 第 26 回静岡県理学療法学術大会 2023.6.17-18 ふじのくに千本松フォーラムプラサヴェルデ
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 重度片麻痺患者が蜂窩織炎後に歩行困難となり、リハビリ見学を通して障害受容が進化した一症例 吉川紗也加、鈴木美穂子、岡田史郎、中山祥子、藤田智大、福川竜也、石川平、岩倉由実、奥田莉奈 第 26 回静岡県理学療法学術大会 2023.6.17-18 ふじのくに千本松フォーラムプラサヴェルデ
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 認知症初期集中支援チームにおける当院作業療法士の役割 鈴木明日香、佐野真裕子、板倉陽香、豊田貴信、秋山友喜美、鈴木恵子 日本認知症ケア学会 2023 年度東海ブロック大会 2023.2.11 ウィンクあいち
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 実車評価を通して趣味活動の再開に至った事例 - テレフォンフォローの関わり - 田中祐大、八木翔平、森下直彦、籠池康太、村松麻希、望月亮 第 36 回静岡県作業療法学会 2023.7.1-17 (Web)
区 演 演 学	分 題 者 会	学会発表 歩行レベル評価尺度 Walking LEVEL Scale (WaLS) の疾患別信頼性・妥当性の検討 神谷康貴、豊田貴信、鈴木琢弥、籠池康太、北矢大典、小島将吾、望月亮、鈴木美穂子 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 2023.9.17 アクトシティー浜松コンgresセンター

区分	学会発表
演題名	早期に在宅復帰支援を行ったことで、受け入れに変化が見られ自宅復帰へ結びついた一症例
演者・共同演者	金子隆成、望月亮、鈴木琢弥、橘内ひとみ
学会名等	第5回聖隷リハビリテーション学会 2023.9.17 アクトシティ浜松コンgresセンター
区分	学会発表
演題名	身体リズム運動を利用したことで構音フィードバックの再獲得が可能となった一例
演者・共同演者	稲垣真衣、村松麻希、浅野全子、八木晴菜、神谷康貴、望月亮
学会名等	第5回聖隷リハビリテーション学会 2023.9.17 アクトシティ浜松コンgresセンター

地域における講演	
区分	講演
演題名	「こころのノート」を使ったライトな ACP～実践までのハードルを乗り越えよう～
演者・共同演者	望月亮（リハビリテーション科）
学会名等	第1回袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会，2023.8.22，袋井市（WEB）
区分	講演
演題名	『今だからこそ考える！あなたらしく生きるための健幸のおはなし』
演者・共同演者	・ 知って役立つ難聴のお話！ 認知症予防とヒアリングフレイルについて・ 自分らしさの見つけ方～最も身近な『人生会議』のやり方～ 林泰広（耳鼻咽喉科）、望月亮（リハビリテーション科）
学会名等	在宅医療介護連携推進事業 市民公開講座，2023.11.5，袋井市教育会館
区分	講演
演題名	「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～
演者・共同演者	鈴木翔（リハビリテーション室）
学会名等	市民向け ACP 出張講座， 2023.12.8，袋井西コミュニティセンター
区分	講演
演題名	「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～
演者・共同演者	鈴木翔（リハビリテーション室）
学会名等	市民向け ACP 出張講座， 2023.12.8，袋井西コミュニティセンター
区分	講演
演題名	「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～
演者・共同演者	高井悠加（リハビリテーション室）
学会名等	市民向け ACP 出張講座， 2023.12.14，笠原コミュニティセンター
区分	講演
演題名	しぞ～かでん伝体操等における出張指導について
演者・共同演者	辻昌伸（リハビリテーション室）
学会名等	地域リハビリテーション推進研修会，2023.12.21，袋井市（Web）
区分	講演
演題名	「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～
演者・共同演者	鈴木翔（リハビリテーション室）
学会名等	市民向け ACP 出張講座， 2024.1.18，山名コミュニティセンター
区分	講演
演題名	「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～
演者・共同演者	高井悠加（リハビリテーション室）
学会名等	市民向け ACP 出張講座， 2024.1.21，東海アクシス専門学校
区分	講演
演題名	「フレイルの引き金となる難聴にかかりつけ医がどのように関わるか？」
演者・共同演者	林泰広（耳鼻咽喉科）
学会名等	令和5年度 地域リハビリテーションサポート医養成研修（静岡県医師会）， 2024.2.4，静岡県医師会館
区分	講演
演題名	「みんなで考えよう！入退院時における医療・介護連携～袋井市版入退院時連携フロー・チェックリストを活用して相互理解を目指そう～」
演者・共同演者	望月亮（リハビリテーション科）
学会名等	第2回袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会，2024.2.7，袋井市（WEB）
区分	講演
演題名	介護予防における効果測定について
演者・共同演者	鈴木琢弥（リハビリテーション室）
学会名等	地域での介護予防活動実施者研修会（地域リハビリテーション活動支援事業），2024.3.13，袋井市総合体育館

区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 岡田史郎（リハビリテーション室） 市民向け ACP 出張講座， 2024.3.14， 睦町公会堂
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	講演 脳卒中市民講座『脳卒中-リハビリテーション-歩ける？ 運転は？ むせる？』 竹原誠也（脳神経外科）、鳥飼武司（中東遠総合医療センター）、宮地紘樹（掛川東病院） 市民公開講座（掛川市・袋井市3病院 10周年合同企画），2024.3.16， 中東遠総合医療センター，
ICLS コース	
タイトル 開催日 講師 参加人数	ICLS コース ① 8月19日 ② 2月10日 西田淳（内科） ① 5名（うち外部3名） ② 6名（うち外部3名）

## 学術実績（著書・論文）

リハビリテーション科	
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	著書 総合診療医としてリハビリテーションを学ぶということ 望月亮 日本医事新報， No.5150， 2023.1.7,p44
看護部	
区分 演題名 演者・共同演者 学会名等	執筆 続・サーバント・リーダーシップ 奉仕型のリーダーシップで看護組織を成長に導く 袋井市立聖隷袋井市民病院の取り組み サーバント・リーダーシップの浸透を目指して 春日三千代 看護管理， 33（5）386-391， 2023.

## 教育実績

### 【階層別研修】

#### ■新入職員導入研修

ねらい	聖隷袋井市民病院が目指す医療を理解する
開催日	2023年4月3日（月）
会場	聖隷袋井市民病院
参加人数	15名（施設間異動者、中途採用者含む）

#### ■新入職員研修

ねらい	就職してからの2か月をふりかえり、組織の一員として自分が果たしていく役割を確認する
開催日	2023年5月11日（木）・12日（金）または5月18日（木）・19日（金）
会場	グランドホテル浜松
参加人数	6名

#### ■1年目職員フォローアップ研修

ねらい	① チームメンバーであることを自覚し、責任を持って自らの役割を果たすことの意義を理解する ② 自分を成長させるために今後取り組むことを見出す
開催日	2023年11月9日（木）または11月10日（金）
会場	聖隷研修センター
参加人数	6名

■2年目職員研修

ねらい	① チームにおける自分の役割に気づき、自分の取り組むべきことを見出す ② 後輩指導をする時に大切にすべきことがわかる
開催日	2023年8月2日(水)・3日(木)または8月9日(水)・10日(木)
会場	聖隷研修センター
参加人数	9名

■中堅職員研修

ねらい	① チームの中でリーダーシップを発揮するために必要な知識・技術を学ぶ ② 自分を成長するために取り組むことを見出す
開催日	1回目：2023年6月15日(木)・16日(金)または6月22日(木)・23日(金) 2回目：2023年9月6日(水)または9月13日(水)
会場	1回目：グランドホテル浜松 2回目：聖隷研修センター
参加人数	6名

■ウェルカム研修

ねらい	① 聖隷福祉事業団の一員としての自覚を持つ ② チームに貢献するために自分がすべきことを見つける
開催日	2023年10月4日(水)または10月5日(木)
会場	聖隷研修センター
参加人数	1名

■キャリアデザイン職員研修

ねらい	① 世の中の顧客ニーズの変化や事業団の活動の広がりを知った上で、自己成長や事業団の中での自分の活躍のイメージを広げ、将来のビジョンを具体化してみる ② 自己の強みと弱みを整理することで、現状の自分を客観的に把握する ③ 「現状」と「将来のビジョン」のギャップを分析し、自己成長や自分の明るい未来のために、これから何をしていくべきなのかを段階的・構造的に整理し、明日からの行動に役立てる
開催日	2023年7月11日(火)または7月20日(木)または7月21日(金)または7月25日(火)
会場	法人本部7階研修室
参加人数	3名

【NR研修(看護部・リハビリテーション室)】

■新入職員研修

ねらい	1) 聖隷袋井市民病院の職員として基本的な知識と技術について学ぶ 2) 協働して学ぶことで他職種の役割を知る
開催日	2023年4月4日(火)～4月7日(金)
参加人数	11名(施設間異動者含む)

■プリセプター導入研修

ねらい	プリセプターとして、新人職員の支援を行なうために必要な知識や役割を学ぶ
目標	1) プリセプターシステムとプリセプターの役割が理解できる 2) 新入職員の特性や個性を理解できる 3) 支援スキルについて理解できる 4) 自分がプリセプターとして大切にしたいことを確認する
開催日	2024年3月5日(木) 13:15～17:00
参加人数	9名

■プリセプターフォローアップ研修

ねらい	看護部のプリセプターシステムとプリセプターの役割を認識し、新入職員の特性を理解しプリセプターとしての支援スキルを学び実践につなげる
目標	実践して上手くいったこと、困った事等を共有し、今後の実践に役立てる
開催日	2023年3月7日(木) 13:15～17:00
参加人数	6名

**【委員会主催研修（e-learning 含む）】**

医療安全管理委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	第1回医療安全講習会 はじめてみよう！Team STEPPS 8月21日～2月8日 必修：全職員（休職等23名除く） 191名：100%
タイトル 開催日 対象 参加人数	第2回医療安全講習会 確認会話 2024年2月1日～29日 必修：全職員（休職等21名除く） 190名：100%
タイトル 開催日 対象 参加人数	BLS講習会 5月～3月（職場毎開催） 必修：全職員（休職等21名除く） 187名：99%
タイトル 開催日 対象 参加人数	リスクマネージャー講習会「IA報告をどう読みとって分析に繋げるか？」 2024年3月14日 医療安全に携わる方 自由参加 25名
タイトル 開催日 対象 参加人数	放射線業務従事者研修 2024年3月21日～31日 対象 放射線業務従事者、医師（必修）、放射線管理区域一時立ち入りの可能性がある者（任意） 必修11名：100% 任意115名：80%
タイトル 開催日 対象 参加人数	新入職員導入研修 医療安全管理について 2023年4月1日 対象 新入職員 異動・中途採用者 13名
タイトル 開催日 対象 参加人数	看護部異動・中途採用者研修 医療安全について 2023年10月3日 対象 看護部所属異動・中途採用者 7名
院内感染対策委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	新型コロナウイルス感染症における当院の対応～5類への移行を踏まえて～ 7月18日・7月25日・8月4日 必修：全職員（194名 休職除く） 178名（伝達講習レポート提出16名）：100% *その他委託業者、袋井市職員21名参加
タイトル 開催日 対象 参加人数	今シーズンの感染症流行状況とその対策～特に、新型コロナ、インフルエンザについて～ 12月19日・12月26日・2024年1月19日 必修：全職員（187名 休職除く） 171名（伝達講習レポート提出16名）：100% *その他委託業者、袋井市職員18名参加
防災委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	防火水槽汲出し訓練 4月18日 対象 防災委員、袋井市職員、監視盤 —
タイトル 開催日 対象 参加人数	炊出し・食事運搬訓練 5月9日 対象 防災委員、袋井市職員、監視盤、日清職員、リハビリ職員 —
タイトル 開催日 対象 参加人数	非常連絡網訓練（ANPIC） 6月16日 対象 全職員 203名
タイトル 開催日 対象 参加人数	消火器・消火栓、搬送訓練 1) 7月21日 2) 8月25日 対象 全職員（3年間で1回参加） 1) 33名 2) 34名

タイトル	火災訓練（机上訓練）
開催日	10月5日
対象	職員、袋井市職員、守衛室、監視盤
参加人数	—
タイトル	地震防災訓練
開催日	2月1日
対象	職員、袋井市職員、守衛室、監視盤
参加人数	—
<b>医療ガス安全管理委員会</b>	
タイトル	酸素ボンベ 安全に使用するために
開催日	2024年1月 資料配信
対象	酸素投与に関与する職場スタッフ
参加人数	187名
<b>利用者満足度向上委員会</b>	
タイトル	接遇マナーの基本!~患者・家族へのかかわり方~
開催日	
対象	全職員
参加人数	受講率 43.3%
<b>安全運転委員会</b>	
タイトル	安全運転講習会／危険予知トレーニング（e-learning）
開催日	1月18日～2月9日
対象	全職員
参加人数	受講率 27%
<b>在宅支援室会議</b>	
タイトル	ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会
開催日	7月27日（木）・2月16日（金）
対象	全職員、袋井市内居宅介護支援事業所
参加人数	7月27日・・・43名（ハイブリッド開催） 2月16日・・・25名（現地開催）
<b>褥瘡対策委員会</b>	
タイトル	新人職員対象褥瘡勉強会
開催日	6月20日
対象	看護部、リハビリテーション室の新入職員
参加人数	7名

### 【外部主催研修 受け入れ】

<b>静岡家庭医養成プログラム</b>	
内容	リハビリテーション科 実習
期間	7月、2～3月
人数	2名
<b>法人本部主催 看護師特定行為研修</b>	
内容	気管カニューレ交換
期間	6～9月
人数	3名

## 【実習生受入れ】

聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科		8名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部作業療法学科		5名
豊橋創造大学	保健医療学部理学療法学科		1名
常葉大学（静岡）	健康科学部理学療法学科		2名
常葉大学（浜松）	保健医療学部作業療法学科		3名
常葉大学	健康プロデュース学部健康栄養学科		2名
静岡医療科学専門学校	理学療法科		1名
静岡医療科学専門学校	理学療法科		1名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（3年生）	老年看護学実習Ⅰ	6名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（2年生）	老年看護学実習Ⅰ	6名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（1年生）	マネジメント実習	6名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修	気管カニューレ交換	2名
大原簿記専門学校浜松校			3名

## メディア掲載

	掲載記事タイトル	掲載日	掲載紙
1	災害時の調理や配送 確認 聖隷袋井市民病院と市が訓練 震度7想定 炊出し	2023年5月11日	静岡新聞
2	「健幸」へ難聴と認知症の関係解説	2023年11月9日	静岡新聞
3	看護業務効率化アワード 最優秀賞に浜松、袋井の2病院	2024年2月7日	静岡新聞
4	「感染管理」課程 9人修了 県看護協会 認定看護師審査へ	2024年3月7日	静岡新聞

「2023 年度 袋井市立聖隷袋井市民病院年報」第 2 号 2024 年 9 月

〒437-0061 静岡県袋井市久能 2515 番地の 1

TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813

URL <https://www.seirei.or.jp/fukuroi/index.html>

発行者 林泰広

編集者 事務課